木南

No.48 2025

神戸大学建築系教室同窓会誌

http://home.kobe-u.com/mokunan

資料請求・各種お問い合わせは右記までお気軽にどうぞ!

神戸校 TEL.078-230-8331

〒651-0084
兵庫県神戸市中央区磯辺通2-2-10
ワンノットトレーズビル6F

「都市・建築・環境」から未来を拓くパートナー

SHOWA SEKKEI

株式会社 昭和設計

大阪・東京・仙台・九州
http://www.showa-sekkei.co.jp

目　　次

ごあいさつ　増田　匡　01
特集
　藤谷秀雄先生ご退職記念　向井洋一・福井弘久　02
学窓から
　2023 年度教室報告　向井洋一　05
　2023 年度就職活動報告　中江　研　06
　建築学教室の異動・非常勤講師一覧　08
　神戸大学建築奨学会報告　谷　明勲　09
神戸大学建築学業賞・建築卒業設計賞・建築卒業論文賞
　各賞の選考について　向井洋一　11
　建築卒業設計賞審査講評　槻橋　修　12
　建築学業賞　13
　建築卒業論文賞　14
　建築卒業設計賞　18
会員だより
　2024 年度［神戸建築学］の報告　金谷百音　20
　神戸大学建築卒業展 2024『響』の報告　丁子紘亘　21
　会員の受賞・入選　22
卒業研究・修士論文・修士設計一覧　23
事務局ニュース
　会務報告　30
　木南会協力金のお願い　30
　会計報告　31
　評議員一覧　32
　木南会会則　34
　編集後記　35
　木南会評議員会・総会のお知らせ　35

ご　あ　い　さ　つ

木南会会長　増田　匡（En10）

昨今の選挙の状況などを見ているとSNS のバーチャルな空間の影響力が日に日に大きくなり、コミュニケーションの取り方や世論の形成過程が以前とは考えられないような状況になってきていることを実感します。そのような中にあって、リアルな空間に依拠した建築に携わる我々は、より適切な価値観を醸成していく必要があると思います。

そのためにも、リアルな空間を基礎とした人の繋がりの重要性は一層増しており、様々なチャンネルでの人の繋がりを作り、維持することが重要だと考えています。

木南会の会員の皆様も同じ学び舎で建築を学んだというご縁を大切にしていただき、会員同士のネットワークを広げ、公私にわたり有意義に本会をご活用いただきたいと存じます。

本会の運営は厳しさを増しており、この度、印刷物による会誌「木南」の発行を取り止めるという苦渋の決断をいたしました。今後はホームページでの掲載となりますが、引き続きご高覧いただき、本会の運営へのご理解・ご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご活躍をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

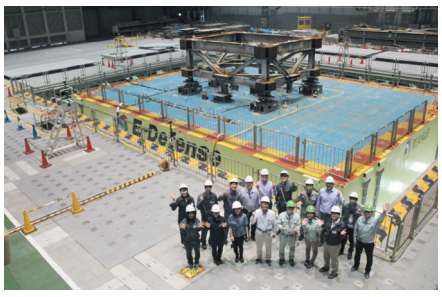
藤谷秀雄先生ご退職記念

藤谷秀雄先生は、令和 6 年 3 月をもって神戸大学を退職されました。先生は、昭和 63 年 3 月に神戸大学大学院自然科学研究科博士課程を修了された後、建設省建築研究所研究員として任用され、構造研究グループ上席研究員を経て、平成 15 年 4 月に神戸大学に着任されました。以来 21 年間にわたり、神戸大学建築学教室において、教育と研究に携わってこられました。

学内運営では、全学の教務委員会委員、入学試験実施委員会委員、工学研究科の教務委員長、財務・研究委員長などの重要な職務を遂行されるとともに、建築学専攻建築構造工学講座の振動工学教育研究部門において、建築構造学、振動制御構造に関わる多くの優れた研究業績を上げられるとともに、多数のゼミ生に熱心なご指導をしてこられました。

また先生は、日本建築学会の理事、監事を務められるとともに、国際建築研究情報会議（CIB）TG44「振動制御された構造物の性能評価」委員、日本学術振興会制震（振）構造・モニタリング技術第 157 委員会委員、日本免震構造協会技術委員会災害時調査部会関西支部長等をご歴任されてきました。

藤谷先生のご退職にあたり、神戸大学における多大なご貢献に対して心より謝意を申し上げますとともに、最終講義の報告をさせていただきます。



Ｅーディフェンスにおける日米共同実験

■最終講義

最終講義は、令和 6 年 3 月 22 日の 15 時 10 分より工学部 C3-302 室で開催されました。藤谷先生のご略歴の紹介の後に、「○○な仕事がおもしろい（R22+）」という題目で、講義が行われました。

学位論文のご紹介、建築研究所でのご経験・ご研究内容とともに、神戸大学でのご研究とその実績を概説いただきました。MR ダンパーの開発とセミアクティブ振動制御実験、リアルタイム・ハイブリッド実験法の導入、2014 年に新たに設置された神戸大学の振動台を活用した制振・免震実験、Ｅ－ディフェンスにおける日米国際共同実験プロジェクト等、数多くの取組を振り返り、「ちょっと出張った仕事が面白い」、と講義を締めくくられました。

最後に、建築構造工学講座からの記念品贈呈、藤谷研究室のゼミ生から花束贈呈が行われ、盛大な拍手をもって最終講義が終了しました。（向井洋一）

最終講義でのご講演・ゼミ生からの花束贈呈

最終講義での集合写真

■藤谷先生の思い出

私は現在、国立研究開発法人防災科学技術研究所で研究職についていますが、おそらく藤谷先生と出会っていなければ振動工学の研究分野や、博士課程に進むことはなかったかと思います。

大学 4 回生でゼミを決める際に、免震構造に興味があり藤谷先生のゼミでお世話になり

たいと思っていましたが、実は私は機械工学科を卒業し、就職を経て再度建築の分野に編入したため、他のゼミ生とも年齢や環境に違いがあり、様々に迷惑をかけてしまうことを危惧しておりました。それらを相談した際には、『私もフォローするので、大丈夫ですよ。』と言って頂いた日を今でも鮮明に覚えています。

ゼミに所属してから、藤谷先生と接していくなかで強く感じたのは、とにかく学生の自主性を重んじてくれる先生だなといった部分でした。いま自分も同じ研究職にいるので分かりますが、研究に“正解”といったやり方はないのですが、どうしても研究を続けていくと一種の“拘り”のようなものが大きくなってきてしまい、自分の思ったやり方で研究を推進していきたくなってくるにつれて、“学生の研究”というよりは“先生の研究のお手伝い”になってしまう場合もあります。ですが、藤谷先生は本当に一人一人に親身になって向きあって、研究を進めていく中で困った事があった時にはそっと“道しるべ”となるようなヒントを与えてくれたり、時には一緒に頭を悩ませてくれたりといった接し方をされていました。今思えば、先生の中で思っていた研究プランがあったのかもしれないのですが、それらを押し付けることなく学生の自主性を尊重し、研究成果だけでなく、学生個人の“考える力”を育てようとして頂いたのかと感じています。

その後、藤谷先生と一緒に研究を行っていくなかで、最初は考えもしなかった博士課程への進学を希望するようになりました。ただ、私がいた頃にはまだ社会人ドクターの方が数名程度で、コースドクターの方はなかなかおられなかったため不安もあったのですが、それらの相談をした際にも、最初のゼミの時と同様に笑顔で『是非一緒にやりましょう。』と勇気付けられました。博士課程では研究だけでなく様々な面でも親身にサポート頂きました。なかでも、日本学術振興会の人材育成事業である“特別研究員制度”や“若手研究者海外挑戦プログラム”などは藤谷先生から薦められたのですが、選考書類も二人三脚で協力いただき、どちらも採用された際には自分の事のようによろこんでもらったことが強く印象に残っています。今後、研究者の道を進む私にとってこれらの制度に採用され、取り組むことは非常に重要であったと、今になればさらに強く感じますし、そもそもこのような事にチャレンジすること自体の重要性も痛感しています。このように、学生としてお世話になっている期間だけでなく、時には親のように、その後の本人のキャリアにおいてプラスになるようなことまで考えて接して頂いていたことが、私が研究者としてだけでなく教育者としても先生を尊敬できるところだと感じています。

このように、藤谷先生の研究・教育活動のスタイルは学生にとっては非常にありがたいもので、社会に出てからさらにそれらに気付かされております。おかげさまで私は、今でも藤谷先生と一緒に研究活動などをさせて頂いておりますし、私が藤谷先生の最終講義で幹事として卒業生の方々にお声がけをした際に皆さまから『是非、参加させてください。』との返事を頂いたときには、藤谷先生が神戸大学に着任されてから、最初から最後まで変わらない親身な指導が皆にも伝わっていたのだと思いました。

長くなりましたが、卒業生の一人として最後にお礼を申し上げます。藤谷先生、本当にありがとうございました。　　（福井弘久）

藤谷・向井研究室集合写真（2019 年度卒業式）

学　歴
神戸大学工学部卒業（1983 年 3 月）
神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了（工学博士）（1988 年 3 月）
職　歴
建設省建築研究所（1988 年 4 月）
神戸大学助教授（工学部）（2003 年 4 月）
神戸大学教授（大学院工学研究科）（2007 年 9 月）
定年退職（2024 年 3 月）・神戸大学名誉教授

BE KOBE

変わる神戸三宮

2028 Rebirth

神戸市役所　六甲会
〒650-8570　神戸市中央区加納町６丁目５－１

指定確認検査機関　住宅性能評価機関

株式会社　ジェイネット

本社：〒661ー0976　兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号　JRE尼崎フロントビル2階
TEL　06-6435-8271　FAX　06-6435-8260
支所：堺支所・神戸支所　　(丸岡 孝久 A41)

■業務範囲　：　近畿２府４県（大阪府・兵庫県・滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県）
■業務内容　：　確認･検査　仮使用認定　住宅性能評価　住宅瑕疵担保保険　フラット35　建築物省エネ判定
長期優良住宅　低炭素建築物　BELS評価　住宅性能証明

http://www.jnet-01.co.jp　こちらより申請書類等がダウンロードできます。是非ご活用ください。

2023 年度教室報告

2023 年度建築学専攻長・学科長
向井洋一

2023 年度は、コロナ禍で、学生も教職員も、大学生活や大学運営に、様々な制約を強いられてきた状況がようやく従前に戻り、キャンパスにもこれまでの活気が戻ってきた年でした。2023 年 4 月には、学部 91 名、大学院前期課程 61 名、後期課程 5 名の新入生を迎えました。

講義や演習・実習は、基本的に対面形式に戻り、教室では、再び、学生同士の直接の会話が交わせるようになり、教員も学生の表情を見ながら、反応を探りながら、授業ができるようになりました。一方、神戸大学では、2019 年度の入学生よりノートパソコンの必携化を進めてきましたが、コロナ禍でオンライン形式の授業実施が余儀なくされたことが結果として、授業のデジタル化が一気に加速しました。講義資料をデジタルプラットフォームで提供することが、ほぼ通常となり、アップロードされた講義資料を、学生は PC やタブレットやスマートフォンにダウンロードし、そこで書き込みやマーキングを行う光景が、ごく日常的となってきました。ただ、こうした授業形態で、従来の教育の質と効果が確保できるのか、を今後検証していく必要があると思われます。また、学生・教員のいずれもが、デジタルリテラシーを身につけていくことも急務であるといえます。

教室構成員の異動についてご報告申します。2023 年 4 月 1 日付で、槻橋修先生が教授（空間デザイン講座，建築・環境デザイン分野）に昇任され、新たに、水島靖典准教授（空間デザイン講座，構造デザイン分野）、安田徹也准教授（建築計画学講座，建築史分野）、鍋島国彦助教（建築構造工学講座，振動工学分野）、大田美奈子技術職員（工学研究科技術室）が着任されました。12 月 1 日付で、藤永隆先生が教授（空間デザイン講座，構造デザイン分野）に昇任され、新たに、堀内啓佑助教（建築計画学講座，建築史分野）が着任されました。2024 年 1 月 1 日付で、新たに、袁士宇助教（建築構造工学講座，鉄筋コンクリート構造分野）が着任されました。3 月 31 日付で、藤谷秀雄先生、光嶋裕介先生が退職されました。藤谷先生は、2003 年に助教授として神戸大学に着任後、2007 年に教授に昇任され、本学で、21 年にわたり、建築構造学、振動制御構造の教育と研究に尽力されました。光嶋先生は、2021 年より特命准教授として 3 年間研究室を主宰され、建築家としての実践的な視点から、建築設計を志す学生指導に尽力されました。

受賞関係では、近藤民代先生が、日本建築学会の英文学術誌（Japan Architectural Review）の 2022 Best Paper Award を共同受賞、後藤沙羅先生の博士学位論文が、前田記念工学振興財団の前田工学賞（建築分野）を受賞、福井一真先生の博士学位論文が前田記念工学振興財団の山田一宇賞（建築分野）を受賞されております。

講義におきましても、多くの学外の方に非常勤講師として、学生指導にご協力を頂いており、ここに記して御礼申し上げます。

おかげさまで、2023 年度は、学士 94 名、修士 61 名、博士 9 名の卒業生 (9 月卒業を含む) を社会に送り出すことができました。建築学教室卒業式・修了式は、2024 年 3 月 26 日に神戸大学・百年記念館六甲ホールで開催されました。神戸大学建築学業賞　10 名（大賞 1 名、木南賞 1 名、優秀賞 8 名）、神戸大学建築卒業設計賞 4 名（大賞 1 名、木南賞 1 名、優秀賞 2 名）、神戸大学建築卒業論文賞（計画系、構造系、環境系の各分野）11 名（大賞 2 名、木南賞 3 名、優秀賞 6 名）の表彰を行いました。

2023 年度は、建築学教室の次の世代における、教育・研究を担う新たな人材をお迎えし、建築学科が次の時流を捉え、さらなる飛躍への力を備えていくための重要な節目の年となりました。

最後になりましたが、木南会の皆様からの建築学教室へのご支援に深く感謝申し上げます。引き続き、建築学教室の歴史と伝統、その志を引継ぎ、次世代を担う後輩育成のために質の高い教育研究の環境を維持していきたいと思っております。今後とも建築学教室へのご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2023 年度の就職活動状況報告

2023 年度就職担当教員
中江　研

2024 年 3 月に卒業・修了する学生を対象とした就職関連業務を担当しました。2023 年度の就職活動状況を振り返りご報告いたします。

コロナ禍以降、様々にオンラインが活用されておりますが、本学科・専攻の就職に関する学生への説明会も 2022 年 11 月にオンラインで実施しました。また、採用に関する各種案内については、逐次、紙掲示とオンライン上の掲示での周知としました。

2023 年度までの最近 5 年間の就職・進学状況について、進路分類別の人数を表 1 に、2023 年度の就職先一覧を表 2 に取りまとめています。学部学生の約 7 割が、他大学を含む大学院への進学を選択しており、就職した学生の半数は、建設業・設計事務所・住宅・不動産関連企業を選択しています。大学院生については、約 6 割以上の学生がこれらの主要分野に就職しており、エネルギー・運輸・製造も含めた建設関連分野への就職を選択する大学院生が約 8 割前後を占めています。こうした傾向は数年来続いており、大きな変化はみられません。

採用選考における変化としては、今年度は、政府の「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」の改正で、一定の要件を満たした質の高いインターンシップで取得した学生情報を活用できることとなったことが挙げられます。就職担当教員として、多くの業種の採用担当の方と意見交換する機会がありましたが、この改正により、一部の建築関係企業でも今後はインターンシップを中心とした採用となっていくというお話も伺いました。

学生の就職活動は、人材紹介企業等が運営する就活プラットフォームの活用にシフトしており、学生個々の就職活動の状況は就職担当教員の方では把握しがたい時勢となっております。その一方で、在学生にとってのもっとも身近な、そしてもっとも参考となるキャリアモデルが諸先輩方であることは変わりません。個々の学生と話をしますと、自分が志望する企業・業種に先輩がいるということが分かると、興味関心が格段に上がるようです。これまでも卒業生・修了生のみなさまには、業界・会社説明を通した後輩との懇談の機会を設けていただいておりますが、こうした繋がりのなかで、みずからの将来像を描いていく学生もおります。

木南会の皆様には、後輩達の就職活動に際して格別のご配慮とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。今後も、現役学生たちとの繋がりを通して、お力添えを賜りますと幸いです。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

表 1　就職・進学状況（過去 5 年間）

年度	2019		2020		2021		2022		2023	
分類	学部生	大学院生	学部生	大学院生	学部生	大学院生	学部生	大学院生	学部生	大学院生
建設業関連（竹中工務店、大林組、鹿島建設など）	6	20	10	21	5	16	6	21	5	21
建築設計事務所・コンサルタント（日建設計など）	1	11	2	7	0	7	0	15	4	12
住宅／不動産関連（積水ハウス、住友不動産など）	7	9	5	10	8	12	13	10	10	13
エネルギー関連（関西電力、大阪ガスなど）	1	4	2	4	0	4	1	2	0	3
運輸／通信関連（JR 各社、近畿日本鉄道など）	3	11	1	7	2	3	2	3	3	3
製造業／建材関連（神戸製鋼所、三菱重工業など）	1	5	3	3	3	5	1	3	2	4
その他（商社、シンクタンクなど）	3	1	4	6	8	6	9	9	3	1
国家公務員（独立行政法人、特殊法人含む）	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0
地方公務員（兵庫県庁、神戸市役所など）	3	1	0	2	0	1	2	0	2	2
大学院進学（博士課程前期・後期、他大学）／専門学校	64	1	66	2	64	0	55	0	61	1
合計	90	65	93	62	91	56	89	63	90	60

表２　2023 年度就職先一覧

大学院生（60）		学部生（90）
建設業関連（21）	**エネルギー関連（3）**	**建設業関連（5）**
㈱大林組（6）	関西電力㈱（3）	㈱鴻池組（1）
鹿島建設㈱（3）		清水建設㈱（1）
清水建設㈱（1）		大成建設㈱（1）
大成建設㈱（2）	**運輸／通信関連（3）**	高松建設㈱（1）
高松建設㈱（1）	大阪市高速電気軌道㈱（1）	㈱長谷工コーポレーション（1）
㈱竹中工務店（7）	近鉄グループホールディングス㈱（1）	
東急建設㈱（1）	西日本旅客鉄道㈱（1）	**建築設計事務所・コンサルタント（4）**
		関西設計㈱（1）
	製造業／建材関連（4）	フューチャーインスペース㈱（1）
	㈱神戸製鋼所（2）	フリーランチ㈱（1）
	JFE スチール㈱（1）	㈱緑景（1）
建築設計事務所・コンサルタント（12）	日本製鉄㈱（1）	**住宅／不動産関連（10）**
㈱アール・アイ・エー（1）		㈱ウィル（1）
アビームコンサルティング㈱（1）		㈱オープンハウス・ディベロップメント（1）
㈱ NTT ファシリティーズ（1）	**その他（1）**	住友不動産㈱（1）
㈱遠藤秀平建築研究所（1）	パナソニック㈱（1）	積水ハウス㈱（4）
㈱高橋俊也構造建築研究所（1）		大和ハウス工業㈱（1）
中国湖州市都市設計研究院（1）		タマホーム㈱（1）
㈱日建設計（3）	**地方公務員（2）**	三井ホーム㈱（1）
㈱日本設計（1）	愛知県庁（1）	
㈱三菱地所設計（1）	神戸市役所（1）	**運輸／通信関連（3）**
㈱安井建築設計事務所（1）		グリー㈱（1）
	大学進学（1）	㈱ KSK（1）
	進学　（神大大学院）　（1）	日鉄ソリューションズ東日本㈱（1）
		製造業／建材関連　（2）
住宅／不動産関連（13）		新日本空調㈱（1）
積水ハウス㈱（5）		積水化学工業㈱（1）
東急㈱（1）		
東急不動産㈱（1）		**その他（3）**
野村不動産㈱（2）		㈱丹青社（1）
阪急阪神不動産㈱（1）		独立行政法人住宅金融支援機構（1）
阪急阪神ホールディングス㈱（1）		丸紅㈱（1）
UR 都市機構（2）		
		地方公務員（2）
		大阪府庁（1）
		富山県庁（1）
		大学進学　（61）
		進学　（神大大学院）（59）
		進学　（他　大学院）（2）

建築学教室の異動

《退職》

藤谷　秀雄　教授　（2024 年 3 月退職）
光嶋　裕介　特命准教授　（2024 年 3 月退職）
山本　真理　非常勤職員　（2024 年 5 月退職）

2024 年度の非常勤講師一覧

〔1 年第 1 クォーター〕

設計基礎Ａ 1　藤原洋次郎
（平面作家）

設計基礎Ａ 1　中川　猛
（造形作家 / 千葉日建工科専門学校非常勤講師）

〔1 年第 2 クォーター〕

設計基礎Ｃ 1　岩田　恵
（株式会社ディーディーティー取締役）

〔1 年第 3・4 クォーター〕

建築素材論Ａ,Ｂ　合田　靖
（株式会社竹中工務店シニアチーフアーキテクト）

〔2 年第 2 クォーター〕

設計基礎Ｂ 3　藤井　章弘
（株式会社 AMDlab 代表取締役）

〔2 年第 3 クォーター〕

設計演習 3　深川（小原）礼子
（株式会社 ofa 代表取締役）

〔3 年第 1 クォーター〕

設計演習ⅢＡ　鄭　弼溶
（株式会社アクセス都市設計設計スタッフ）

設計演習ⅢＡ　松本　猛
（株式会社安井建築設計事務所設計部部長）

〔3 年第 2 クォーター〕

設計演習ⅢＢ　中江　哲
（武庫川女子大学建築学部建築学科教授）

〔3 年第 3 クォーター〕

計画演習ＩＡ　高麗　憲志
（高麗建築設計一級建築士事務所代表）

〔3 年第 3・4 クォーター〕

建築構法　福田　一夫
（株式会社大林組大阪本店建築事業部品質管理部長）

建築・都市・環境法制Ａ,Ｂ　田中　幸夫
（神戸市建築住宅局建築指導部長）

〔3 年第 4 クォーター〕

計画演習ＩＢ　本田　孝子
（株式会社日建設計執行役員設計部門プリンシパル）

計画演習ＩＢ　小幡　剛也
（株式会社竹中工務店大阪本店設計部第 3 部長）

計画演習ＩＢ　畑　友洋
（神戸芸術工科大学環境デザイン学科准教授）

建築設備システム　中川　浩明
（株式会社竹中工務店東京本店設計部
環境設計グループグループ長）

〔4 年第 1・2 クォーター〕

計画演習ⅡＢ　岩田　友紀
（株式会社日建設計アソシエイト）

計画演習ⅡＢ　八木　弘毅
（株式会社日建設計都市・社会基盤部門シビルグループ
開発設計部公共空間デザインチームアソシエイト）

〔4 年前・後期〕

卒業研究　大谷　弘明
（株式会社日建設計チーフデザインオフィサー
常務執行役員）

※非常勤講師としての卒業研究の担当は、卒業設計の中間発表会、最終提出後の発表会において指導・講評を担当するもので、上記以外に各設計演習・計画演習の非常勤講師も卒業設計の非常勤講師となっている。

神戸大学建築奨学会報告

神戸大学建築奨学会事務局長
谷　明勲（A ㉖）

平素より、神戸大学建築奨学会にご協力頂き有難うございます。2024 年度の神戸大学建築奨学会の会計報告をさせて頂きます。神戸大学建築奨学会では、本年度も神戸大学工学部建築学教室の学部 4 年生、博士課程前期課程（修士）2 年生への奨学活動を実施しております。2010（平成 22）年度以降、奨学生の全額支給者数数の上限を 5 名（支給総額：24 万円× 5 名= 120 万円）としており、本年度もこの方針で奨学生の選考を行いました。

2024 年度は、修士 2 年生から 2 名、学部 4 年生から 2 名の応募がありました。慎重に検討しました結果、応募者の中から修士 2 年生 2 名が従前の全額支給要件を満たしており、この 2 名を全額支給者に決定しました。本年度も、この段階で従来の全額支給者の上限人数である 5 名に達しませんでした。そこで、残りの応募者である学部生 2 名の審査を行った結果、2 名とも従前の半額支給の要件を満たしておりましたので、この 2 名を半額支給者に決定しました。本年度も従前の選考基準通りに選考を行った結果、全ての応募者に奨学金を支給する結果となりました。なお、本年は応募者が少なく、支給対象総額は全額支給者数上限の 5 名分には達しない結果となりました。

以上より、本年度の奨学生総数は 4 名で、支給総額は全額 2 名分の 48 万円と半額 2 名分の 24 万円の合計 72 万円（全額支給者 3 人分）となりました。奨学助成の支給額は 2024 年度収支明明細書の中に記載しております。

この結果、前年度（2023 年度）からの繰越金 2140 万 1901 円に対して、次年度(2025 年度)への繰越金は 2068 万 2368 円となりました。本年度の収支の詳細は、2024 年度収支明細書をご覧下さい。

木南会会員の皆様方には、神戸大学建築奨学会の趣旨にご理解を賜り、引き続きのご寄付を御願い致します。また、奨学助成を受けられた方々には、就職された後には、後輩のために奨学会への寄附を強くお願い申し上げます。振り込みは 1 口 1,000 円で、口座は下記の通りです。

加入者名：「神戸大学建築奨学会」
口　　座：（郵便振替の場合）01180-1-37246
（銀行振込の場合）三井住友銀行
六甲支店　普通口座 3435731

また、当奨学会に対する皆様方からのご意見やご助言等がございましたらお知らせ下さい。電話：078-803-6065（建築学事務室内）。

最後になりましたが、今後とも、神戸大学建築奨学会に、木南会会員の皆様の暖かいご支援をよろしくお願い致します。

■ 2024 年度収支明細書
（2024 年 12 月 5 日現在 ）

収入の部	
繰越金	21,401,901
利息	467
合　計	21,402,368
支出の部	
■奨学助成（全額）2 名	
M2 生 2 名分	480,000
■奨学助成（半額）2 名	
4 年生 2 名分	240,000
小　計	720,000
翌年度への繰越	20,682,368
合　計	21,402,368

http：//www.cube-3.co.jp

より豊かでより確かな都市環境に向けて
従来の枠にとらわれない柔軟な視点から

代表取締役　天宅　毅　　A 35 院 24

一級建築士事務所　第 01A00825 号　宅地建物取引業者　兵庫県知事 (6) 第 10264 号

株式会社キューブ

CUBE

〒650-0002　神戸市中央区北野町 1 丁目 5-25 アンビエンテ北野 2 F
TEL：078-222-9517　FAX：078-222-9516　e-mail：info@cube-3.co.jp

株式会社 **徳岡設計**
TOKUOKA SEKKEI LTD.

代表取締役社長　徳岡浩二
取締役/大阪事務所副所長 西田知生　AC3　AC院5

大阪事務所　大阪市中央区本町橋 5-14ｵｰｼﾞｰﾋﾞﾙ本町橋 3 階
〒540-0029　TEL.06-6910-7178
東京事務所　九州事務所　Tokuoka Sekkei Myanamr Co.,Ltd.
http://www.tokuoka-ao.co.jp
E-mail:somu@tokuoka-ao.co.jp

株式会社 **大建設計**

本　社　東京都品川区東五反田５丁目１０番８号
TEL:03-5424-8600
本　店　大阪府大阪市西区京町堀１丁目１３番２０号
TEL:06-6449-6800
事務所　東京・大阪・名古屋・九州・札幌・東北・広島・沖縄
国際・プラント・医療
http://www.daiken-sekkei.co.jp

兵庫県庁木南会

職員採用の
情報はこちら

＊広告の掲載順は、厳正な抽選のもと決定しております。

2023年度の「神戸大学建築学業賞」及び「神戸大学建築卒業設計賞」「建築卒業論文賞」の大賞、木南賞、優秀賞の受賞者は、以下のとおり決定しました。受賞者は３月26日に開催された建築学教室卒業・修了式にて表彰されました。

2023年度　選考結果

神戸大学建築学業賞

大賞｜**山口沙礼**

木南賞｜**土屋祐介**

優秀賞｜**木村真唯　髙橋莞市**
千田絢理　阿部桜子
山口千晶　田中琴絵
大津峻平　長谷川晶穂

神戸大学建築卒業設計賞

大賞｜**泉　貴広**

木南賞｜**柳内あみ**

優秀賞｜**延近佑澄　丁子紘亘**

神戸大学建築卒業論文賞（計画系）

大賞｜**該当なし**

木南賞｜**山口千晶**

優秀賞｜**該当なし**

神戸大学建築卒業論文賞（構造系）

大賞｜**赤川稜昌**

木南賞｜**武智亮太**

優秀賞｜**一楽信行　木村真唯**
米倉涼平　西下　亘

神戸大学建築卒業論文賞（環境系）

大賞｜**木村祐希**

木南賞｜**田中琴絵**

優秀賞｜**小林紗也　正田康輔**

KTC理事長賞｜**山口沙礼**

各賞の選考について

2023年度 建築学業賞審査委員長
向井　洋一

■建築学業賞

選考は、４年間（編入生は２年間）の成績に基づき行われました。

選考にあたっては、例年と同様に、４年間（編入生は２年間）の単位取得科目の成績（秀・優・良・可）を点数換算し、合計点（量的評価）と平均点（質的評価）の両面から評価して、上位10名の成績優秀者を選出し、最も優秀であった者に建築大賞を、次点者に木南賞、以下10位までに優秀賞を授与するものとしました。

なお、これまで、学業成績の優秀者であっても卒業設計賞の受賞者であれば、卒業設計賞の方を優先させていましたが、2021年度の卒業論文賞の創設にあたり、学業賞と卒業設計賞・卒業論文賞はそれぞれ選考を行い、同時受賞も認められています。

■建築卒業設計賞・建築卒業論文賞

表彰の対象者は、原則として上位15％程度です。選考状況により、該当なしとする場合もあります。

建築卒業設計賞

選考は、卒業設計発表会後の選考会（公開）にて行われました。

神戸大学建築卒業論文賞（計画系）

選考は、提出された論文、要旨、卒業論文発表会での発表に対して、今年度の卒業論文の指導教員全員および卒業論文を指導していない教員3名の計４名によって行われました。

神戸大学建築卒業論文賞（構造系）

選考は、提出された卒業論文と卒業論文発表会での発表に対して、構造系の全教員によって行われました。

神戸大学建築卒業論文賞（環境系）

選考は、提出された卒業論文と卒業論文発表会での発表に対して、環境系の全教職員で行われました。

■KTC（神戸大学工学振興会）理事長賞

各学科の成績優秀者に贈られるKTC理事長賞には建築学業賞の大賞受賞者を推薦するものとしました。

2023年度神戸大学
建築卒業設計賞審査講評

2023年度神戸大学建築卒業設計賞選考会
審査委員長
槻橋　修

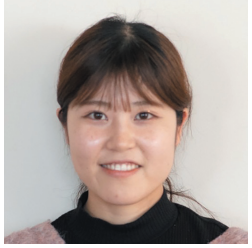
2023 年度の建築卒業設計賞の審査は、2024 年 2 月 18 日に神大会館六甲ホールで、卒業設計発表会に引き続き開催された神戸大学建築卒業設計賞選考会において実施されました。選考会は、選考委員長を槻橋、司会を山口が担当し進められました。本年度の卒業設計発表会発表作品は 25 作品で、発表および質疑応答の後、まず、選考委員による投票（4 作品選出、2 作品 2 点、2 作品 1 点の合計）の結果、佳作以上に相当する賞選考対象作品として 10 作品が選出されました。

10 作品を対象とした選考会の選考委員は計画系の教授・准教授・講師の 8 名と選考会にご参加いただいた非常勤講師 11 名の計 19 名で行われました。選考方法は、その課程における選考委員によるコメントや学生との質疑応答のプロセス自体が全学生にとって教育効果が期待できるという考えから、今年度より 2 回の投票による選考に変更しました。なお、評価の客観性を期するため、選考委員が指導教員となっている学生の作品への投票を控えるという申し合わせのもとで選考を行いました。まず優秀賞候補作品（4 作品程度）を選定するための一回目投票（審査委員一人 2 票の記名投票）を行い、審査委員間の議論、候補者からの追加質問回答ののち、大賞・木南賞を選定するための二回目投票（審査委員一人 1 票の記名投票）をおこないました。その結果、第 2 回投票で最多得票を得た泉貴広君の作品を大賞候補として選出し、ついで次点の柳内あみ君の作品を木南賞候補として選出、一回目投票で 4 作品に選ばれた延近佑澄君、丁子紘亘君、 2 名の作品を優秀賞候補としました。さらに 1 次選考で得票を得た、山口沙礼君、小林利彰君、宇野耀士君、盛本しほり君、長谷川晶穂君、金谷百音君ら 6 名を佳作候補として選出しました。そして後日、これらの候補作品は、建築学教室の教室会議で正式に各賞に決定しました。

大賞となった泉貴広君の「地車創生譚　－市民にひらく岸和田だんじり合同修理拠点－」は、岸和田だんじり祭の 22 台のだんじり（山車）と地域でその補修や飾りの制作などを手掛けてきた職人の仕事に焦点を当て、年に 2 日間の祭り以外の期間にだんじりの修理、メンテナンスを行い、そのプロセスをミュージアムとして展示する合同修理拠点の提案でした。南海岸和田駅付近の岸和田天神宮に隣接する敷地に立体高架下の空間を含んだ設計による都市計画的な観点と、だんじりの宮入りの動線を組み合わせた計画で、市内の職人へのインタビューを通して計画された立体斜路をめぐるだんじり補修の工房がダイナミックに展開する空間が評価されました。木南賞の柳内あみ君の「遊動するくらしのすゝめ　－ナリワイと分かち合いの自由が展開するこれからの坊勢島－」は姫路市家島諸島に浮かぶ坊勢島の高齢化・過疎化に直面した漁業集落を対象とし、集落の地形、路地空間、住居への緻密なフィールドワークをもとに、集落空間から見出された路地や庭、隣地関係の柔軟な活用方法を現代的な建築的操作で増幅させ、島での創造的な共同性の創出を目指した作品でした。

優れたプレゼンテーション、課題設定と計画による解決案のスマートな提示など、レベルの高い作品が多かった印象ですが、加えて審査委員の先生方の評価やコメントにより作品にさらなる深みや広がりが見出されたとき、設計者各々の受け取り方に、各自のモチベーションや制作過程でたくさん思い悩んだプロセスが垣間見えた気がします。最終案に結実するのは一つの案ですが、それまでの過程でどれほど真摯にプロジェクトに取り組んだかも、こうした質疑応答の中に現れてくるものです。その意味でも今年の審査方法を改善した効果が感じられました。

神戸大学建築学業賞　大　賞



山口 沙礼

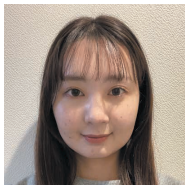
卒業に際し素晴らしい賞をいただき大変光栄です。友人と共に切磋琢磨し過ごしたこの 4 年間は何にも変えることのできない宝物です。出会って支えてくださった全ての方に感謝いたします。この先、数多くの困難があるとは思いますが、自分自身が選択した道で沢山の花を咲かせることができるよう努めて参ります。

神戸大学建築学業賞　木南賞

土屋 祐介

卒業に際し、このような名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。この 4 年間、先生方や先輩方、家族や友人などの支えがあり、楽しみながら勉学に励むことができました。まだまだ未熟ではございますが、これまで私を支えてくださった方々に恩返しができるよう、今後も日々精進していく所存です。ありがとうございました。

神戸大学建築学業賞　優秀賞



木村 真唯

卒業に際し、このような賞をいただき大変光栄に思います。大学4年間の頑張りをこのように評価していただけて、嬉しいです。先生方、先輩、友人のおかげで充実した大学生活を送り、卒業を迎えることができました。周りの方々への感謝を忘れず、今後も日々精進して参ります。

髙橋 莞市

卒業に際し、このような素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います。コロナ禍の影響で大学生活が制限される中、先生方や先輩方のご指導、友人や家族の支えにより、数多くの学びや経験、そして出会いに恵まれた4年間を過ごすことができました。周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、卒業後もより一層精進して参ります。

千田 絢理

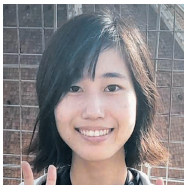
4 年間の学修に対する評価として、このような賞をいただけたことを大変光栄に存じます。自分なりの試行錯誤の結果を認めていただけた経験を誇りとし、これから先への喜ばしい糧とさせていただきます。これまでの学生生活に様々なご助力をいただいた先生方や先輩方、友人、そして両親に心から感謝いたします。

阿部 桜子

この度は建築学業賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。温かく見守って下さる先生や友人に恵まれ、自分の好奇心に素直に向き合えたことで、悔いのない学生生活を送ることができました。未熟な私を成長させてくれたすべての出会いに感謝し、今後も精進して参ります。

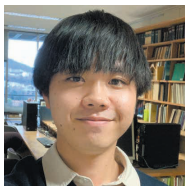
山口 千晶

この度、素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思います。友人達とともに講義や演習に取り組む日々は、困難なこともありましたが、私にとって非常に幸せで貴重な時間でした。お世話になった先生方や友人達、両親に心から感謝しております。この建築学科での 4 年間を活かして、これからの仕事にも励んでいきたいと思います。



田中 琴絵

この度は、素晴らしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。楽なことばかりではない 4 年間でしたが、これまでの学生生活で最も新しい挑戦や発見のある時間を過ごさせていただきました。理由は違えど建築に興味を持った友人達と一緒に勉強できたこの時間を、一生の糧として、何よりも大切にして今後も精進して参りたいと思います。



大津 峻平

建築学業賞という非常に名誉ある賞を頂き誠に光栄でございます。入学当初からコロナが猛威を振るい対面授業が困難であるにも関わらず、先生の方々が様々な授業方法を模索して頂き、有意義な時間を提供して下さったおかげでございます。学業賞の名に恥じぬよう今以上に研究に励んでまいります。ありがとうございました。

長谷川晶穂

この度は名誉ある賞をいただき大変嬉しく思います。この 4 年間、私にとって友人達とともに過ごした何気ない日々が何よりも幸せで楽しかったです。共に高め合える良き友人達に出会えたことを一生の糧とし、今後も精進して参ります。これまで支えてくださった先生方や家族、友人達、本当にありがとうございました。

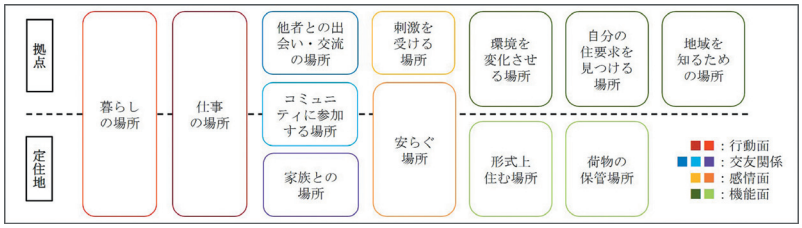
神戸大学建築卒業論文賞（計画系）　木南賞

山口 千晶

多拠点居住者のホームと拠点の意味に関する研究

―定額制住み放題サービス ADDress 社の会員を対象として―

多拠点居住者のホームと拠点の意味を明らかにし、彼らが求める住まい方を考察する。ホームには精神的なホームが 4 種、場所的なホームが 5 種あり、この組合せによってホームが形成され、多拠点居住によりホームは変化する。多拠点居住者における拠点と定住地の意味は図のように集約され、この比較より求める住まい方を示す。



変化		精神的なホーム			
		薄れた	増えた	変化無し	無回答
場所的なホーム	認識の変化	精神的な拠り所として場所（地域）自体に対する依存がなくなり，その対象が人へとシフトした．地元が故郷という認識ではなく，家族のいる場所という認識に変化した．（No.13） 精神：他者への依存度がほどよく下がった．場所：多拠点居住により好きな場所が増えたが故に一つの自分の帰る場所を見つけたくなった．（No.23）	精神：多拠点居住で出会ったコミュニティが心の拠り所として増えた． 場所：東京が帰りたい場所だと再認識した．（No.8）	場所：やはり自宅が一番と再認識した．（No.17） 場所：関西への憧れ・愛着が低下した．（No.19）	
	増えた		精神：お気に入りの拠点が心の拠り所として増えた． 場所：ADDressの拠点が帰りたい場所として増えた．（No.15） 精神：多拠点居住中に出会った人が増えた． 場所：ADDressの居心地良い拠点が増えた．（No.21）	場所：多拠点居住で訪れた拠点が増えた．（数の増加）（No.10） 場所：多拠点居住で住みやすさを知った静岡が帰りたい場所として増えた．（No.14） 場所：多拠点居住で訪れた拠点が増えた．（数の増加）（No.18）	
	変化無し		精神：多拠点居住で出会ったコミュニティが心の拠り所として増えた．（No.1） 精神：多拠点居住で出会った仲間が心の拠り所として増えた．（No.20） 精神：多拠点居住で出会った人が心の拠り所として増えた．（No.22） 精神：自宅以外の場所が心の拠り所として増えた．（No.24）	No.3 No.4 No.7 No.11 No.12 No.18	
	無回答		精神：一時定住しているシェアハウスが心の拠り所として増えた．（No.5） 精神：ADDressの拠点にある細分化された居場所が増えた．（No.9）	No.6	No.2

このような賞をいただくことができ大変光栄に思います。論文を執筆するにあたり、近藤先生や所属する研究室の仲間先輩方には、調査を行う上での支援や多くの助言をしていただきました。さらに ADDress の利用者の方々にも沢山のご協力をいただき、皆さんのご協力があったからこそ書くことができました。心より感謝申し上げます。

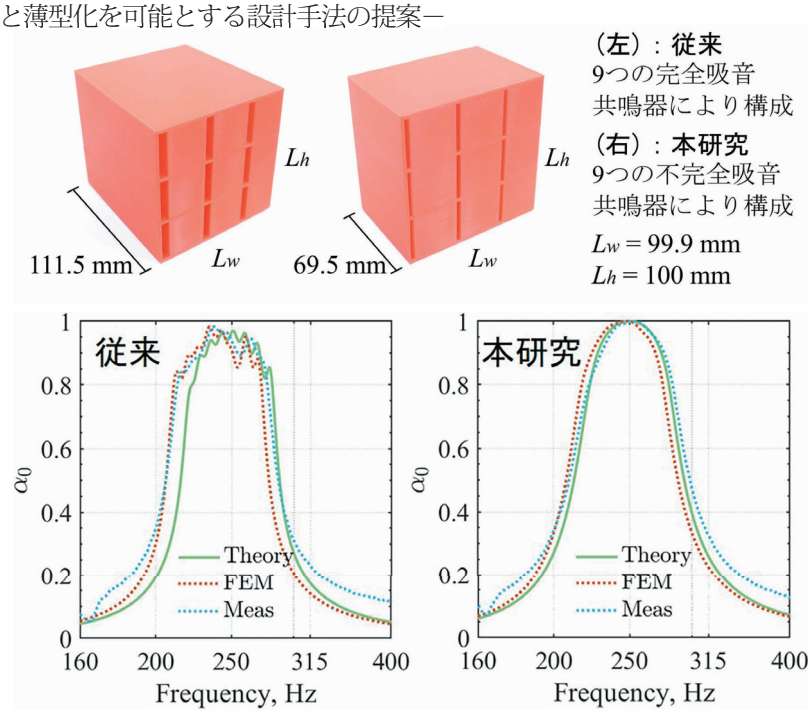
神戸大学建築卒業論文賞（環境系）　大　賞

木村 祐希

マイクロスリットを用いたオクターブバンド音響メタサーフェスに関する研究

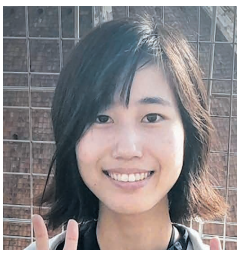
―低域における理論検証と薄型化を可能とする設計手法の提案―

マイクロスリットを用いた音響メタサーフェス吸音体について、目標周波数範囲内で、共鳴器間の結合効果から生じる吸音率の低下を抑制する準完全吸音体の新しい設計手法を提案した。熱粘性音響数値解析による検証と音響管法測定による妥当性確認から、従来よりも薄型となる 1/3 オクターブバンド準完全吸音体を実現できた。



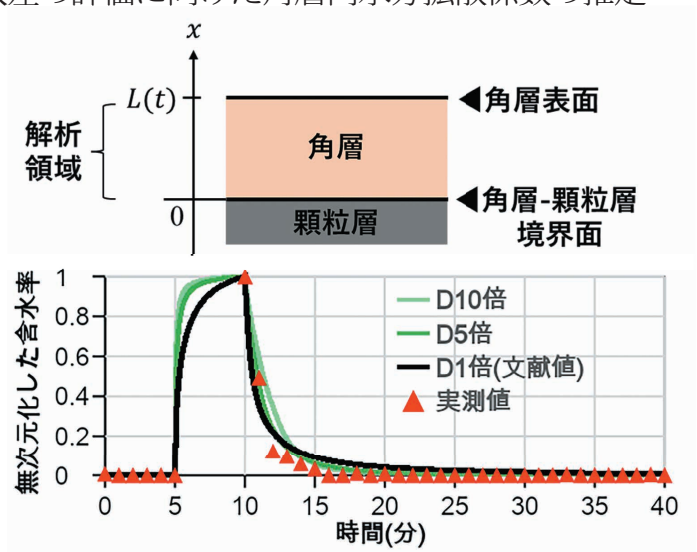
かねてより本学で携わりたいと望んでおりました分野の研究において、卒業に際し、このような名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。研究にあたり、理解が及ばない私に対して丁寧にご指導いただきました阪上先生・奥園先生をはじめ、研究室の皆様に深く感謝申し上げます。大学院でも初心を忘れず、日々精進して参ります。

神戸大学建築卒業論文賞（環境系）　木南賞



田中 琴絵

皮膚の乾燥感における個人差の評価に向けた角層内水分拡散係数の推定



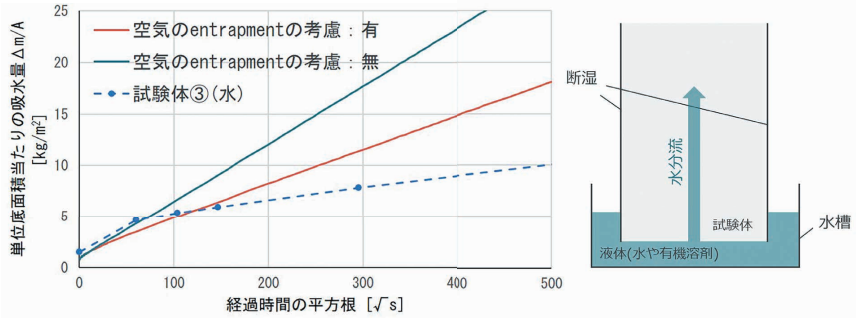
本研究では乾燥感の個人差の評価に向け、皮膚の濡れ後の水分蒸発過程における含水率変化を測定し、角層膨潤収縮モデルにより測定値の応答速度を再現する角層の水分拡散係数を同定した。ばらつきはあるものの、水分拡散係数を文献値より大きな値(2～20倍)とした際により測定値と合致する解析値を得られることを示した。

この度は、このような名誉ある賞をいただきありがとうございます。多くの出会いと学びに恵まれ充実した1年となりました。至らない点の多い私にも根気強くご指導いただいた高田先生をはじめ、研究室の皆様に深く感謝申し上げます。明珠在掌、周囲の方々のありがたさを忘れず、大学院でも精進してまいります。

神戸大学建築卒業論文賞（環境系）　優秀賞

小林 紗也

ALCの吸水性状に水との反応性と空気のentrapmentが与える影響

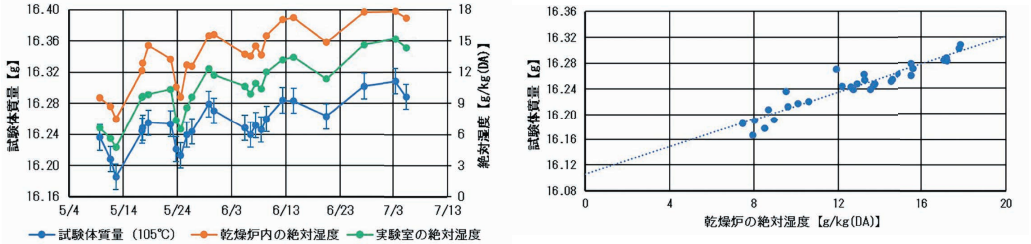


本研究では一般的な材料とは異なる吸水性状を持つ材料の1つであるALCに着目し、異なる液体を用いた吸水実験と空気のentrapmentを考慮した空気・水分同時移動解析によりALCの吸水過程に影響を与える要因について検討した。その結果、材料と水との反応性だけでなく空気のentrapmentがALCの吸水性状に影響を与えている可能性が示された。

大学生活の集大成として、このような名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。周囲の方に恵まれた1年間であったように感じます。日頃から熱心にご指導くださった福井先生・高田先生をはじめ、研究室の先輩方や同期の皆様に心から感謝申し上げます。この1年間の経験を糧として、今後も精進して参ります。

正田 康輔

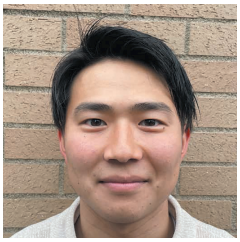
試験体の乾燥時の環境が多孔質建築材料の平衡含水率の測定結果に及ぼす影響



材料内の水分移動を予測する際に必要な物性値である平衡含水率について、乾燥時の環境がそれに及ぼす影響を明らかにするために、乾燥時の試験体質量と周囲の環境の変動を測定した。測定結果より、周囲の環境の絶対湿度変動とともに試験体質量が変化し、地域・季節ごとの絶対湿度変動が平衡含水率に大きな影響を与えることが推定された。

この度は、卒業論文賞を頂くことができて誠に光栄に思います。この1年間は、研究という授業とは似て非なる成果を求められるものに振り回されてきましたが、福井先生をはじめ、研究室の皆様の支えのおかげで論文の完成に至りました。今後は、それらの経験をこれからの大学生活や研究においての糧とし、日々精進して参ります。

神戸大学建築卒業論文賞（構造系）　大　賞



赤川 稜昌

孔あき鋼板ジベルを用いた CFT 柱継手の引張耐力に及ぼすコンクリート強度と孔形状の影響に関する実験的研究

本論では機械的ずれ止めを用いた新しい CFT 柱継手の引張性能について検討しました。引張荷重と抜出し量関係では、試験体の破壊性状が耐力挙動へ及ぼす影響について考察しました。またひずみゲージの値から算出した負担軸力割合から、柱継手の引張耐力の大部分は孔部のコンクリートの二面せん断力で負担していることを確認しました。

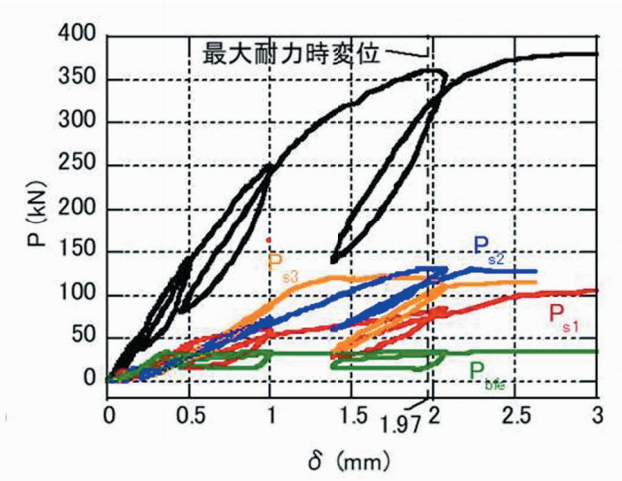
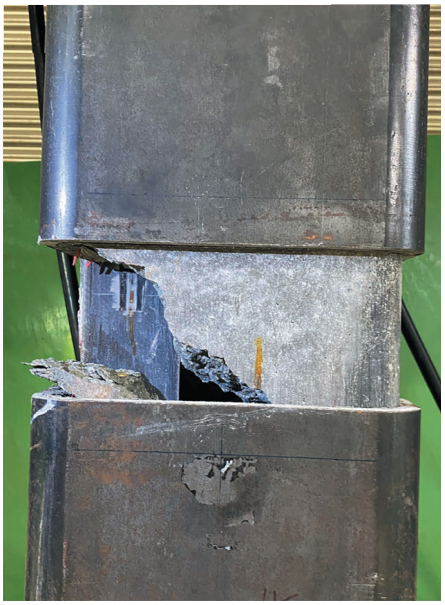


図 3　付着・摩擦力の負担割合



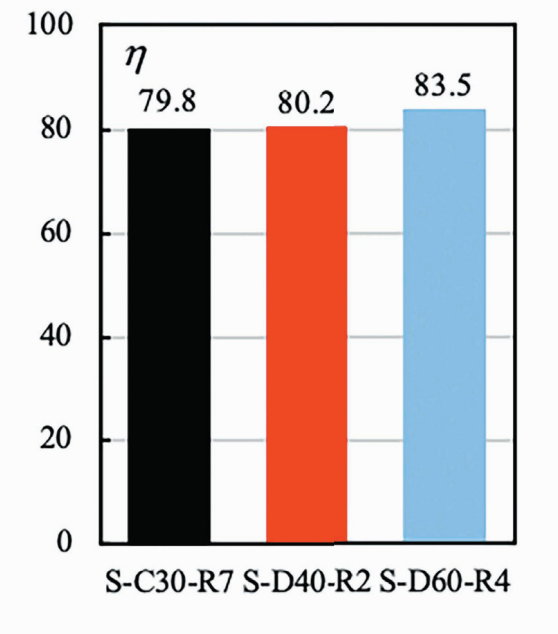
このような素晴らしい賞をいただけたこと、大変光栄に思います。右も左もわからないような自分に対し、親身にご指導くださった藤永先生や研究室の皆様に心より感謝申し上げます。この経験を糧に、日々精進していく所存です。

神戸大学建築卒業論文賞（構造系）　木南賞

武智 亮太

半自動高電流埋もれアーク溶接を用いた梁端接合部の塑性変形能力

半自動高電流埋もれアーク溶接を梁端接合部に用いたＴ字形柱梁部分架構の載荷実験を行い、溶接方法の違いが塑性変形能力に与える影響を検討した。実験結果より累積塑性変形倍率に違いは見られなかったため、高電流埋もれアーク溶接を建築鉄骨の柱梁接合部に使用しても通常のアーク溶接と遜色ないことが明らかになった。



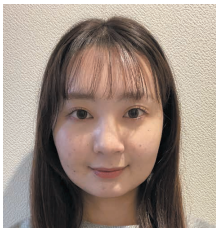
木南賞をいただき大変光栄に思います。卒業研究を通じてうまくいかないことも多く、研究活動の難しさ、面白さを学ぶことができました。また、このような名誉ある賞をいただくにあたって熱心にご指導くださった田中剛先生をはじめ研究室の皆様に感謝申し上げます。大学院ではさらに研究に邁進して参りたいと思います。

一楽 信行

SBPDN 鉄筋を用いたプレキャスト円形 RC 柱の耐震性能に関する実験的研究

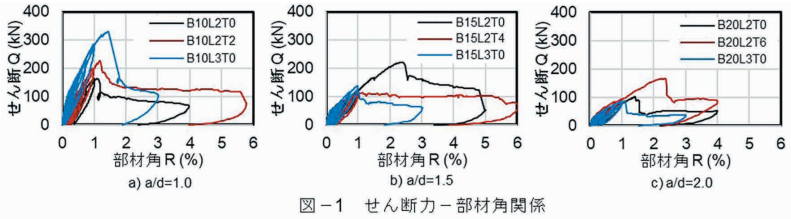
SBPDN 鉄筋という特殊な鉄筋を使った短い RC 柱を作製し、写真に示すような載荷装置を組み立て、作った柱を破壊するという実験を行いました。この実験から、プレキャスト柱の耐震性能は一体打ち柱のそれと同等であり、また柱に鋼管を巻くことで耐震性能が大きく向上するといったことがわかりました。

このような貴重な賞を頂けるとは思いもしませんでした！これからも研究頑張ります！



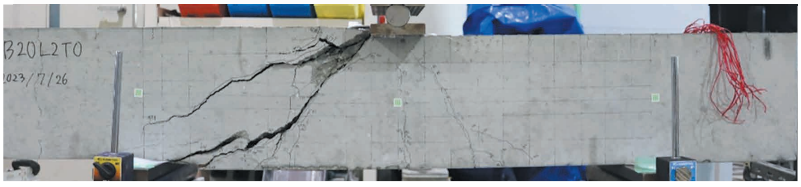
木村 真唯

高強度 RC 梁のせん断挙動及びせん断耐力に関する研究



図－1　せん断力－部材角関係

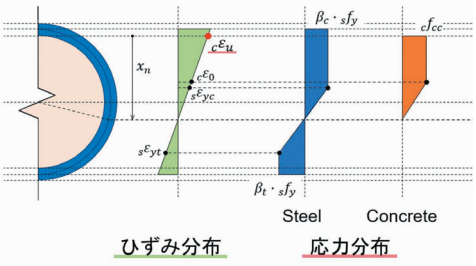
本研究では、高強度 RC 梁のせん断性状について検証するために、９体の試験体を作製・載荷実験を行い、せん断耐力評価式の精度を検証した。いずれの試験体も部材角１％以上でせん断破壊し、既往研究の提案式で比較的精度よく評価できることが確認された。

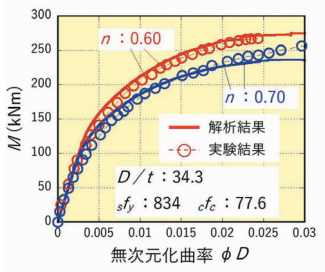


このような賞をいただき、大変光栄に思います。卒業研究を行うにあたり、ご指導いただきました孫先生をはじめ、協力してくださった先生方と研究室の皆様に心より感謝申し上げます。引き続き大学院でも精進して参ります。

米倉 涼平

広範囲の径厚比と高強度材料を用いた円形 CFT 柱の終局曲げ耐力評価法



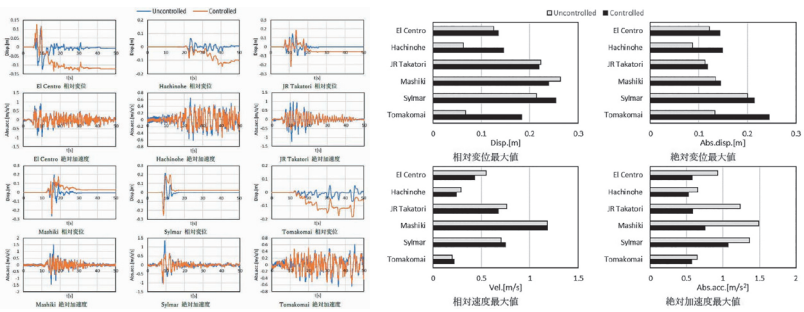


CFT 指針適用範囲外の円形 CFT 柱の終局曲げ耐力を精度良く評価するため、耐力式の提案・検証とファイバー法による数値解析を行った。コンクリートの曲げ圧縮側最外縁ひずみ $_c\varepsilon_u$ を規定して中立軸近傍の弾性域を考慮することで予測の安全性が向上した。$_c\varepsilon_u$ の値によって特定の無次元化曲率での曲げ耐力を予測できることも判った。

卒業に際し、このような賞をいただき大変光栄に思います。卒業研究および論文執筆を通して、研究活動の難しさや面白さを学ぶことができました。ご指導をいただいた先生方や先輩方、共に研究に取り組んだ友人、支えてくださった家族に感謝し、大学院ではより一層精進して参ります。

西下　亘

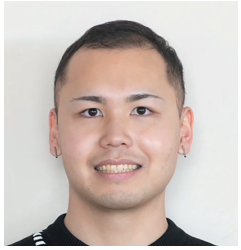
免震構造のアクティブ制御における最適制御のパラメータと制御効果に関する研究



近年発生が危惧されている大振幅地震動に対する応答低減手法として、アクティブ免震手法に着目し、制御の目的に合わせて評価関数を設定できる最適制御を適用した際の制御効果を検証した。絶対加速度を抑制するパラメータ設定において、高い制御効果が確認されるとともに、変位応答が増大するといった問題点も見受けられた。

卒業にあたり、このような素晴らしい賞を頂き大変光栄に思います。編入生としての2 年間の努力が実を結んだことを嬉しく思うとともに、ご指導いただいた先生方や先輩方、切磋琢磨した友人たち、そして支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。この気持ちを忘れることなく、今後も日々精進して参りたいと思います。

神戸大学建築卒業設計賞　大　賞



泉　貴広

地車創生譚

―市民にひらく岸和田
だんじり合同修理拠点―

岸和田だんじり祭りのケの日の在り方を問う。祭日の二日以外の繊細で美しい一面を持っただんじりの修理が集う、岸和田の新たなシンボルの拠点を設計することで、祭りという巨大なコミュニティと各町の小さなコミュニティを繋ぐ中間の存在をうむ。それは岸和田の真の姿である1年365日がだんじり祭りの街を呼び起こす。

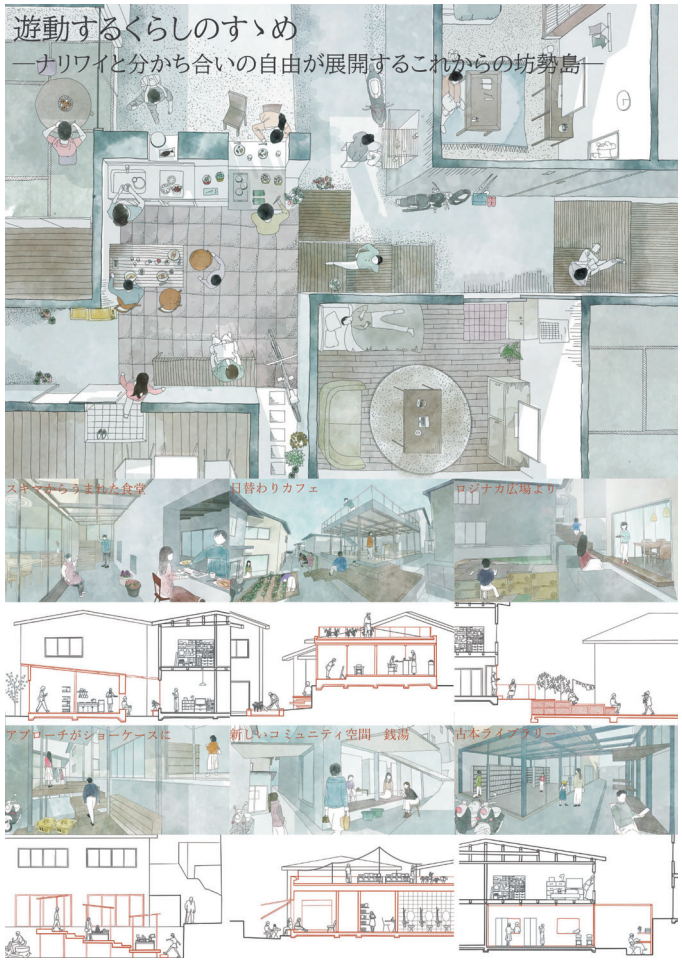
大学での学びの集大成である卒業設計において、地元の大切な行事を発展、継続させていくための提案を評価していただき、大賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄です。先生方や地元の職人の方、先輩や後輩などの多くの人に支えられていただき満足のいく卒業設計になりました。大学院ではこの経験を糧とし、より一層邁進してまいります。

神戸大学建築卒業設計賞　木南賞

柳内 あみ

遊動するくらしのすゝめ

―ナリワイと分かち合いの自由が
展開するこれからの坊勢島―



人口減少が進む姫路市の離島坊勢島で、島民が路地空間の利用解釈を豊富化させている様子「分かち合いの自由」を発見。この行為を促し展開させる小さな仕掛けを計画し、新たに設けるプログラム「ナリワイ」を波及・連関させることで島のくらしを豊かに持続させるきっかけづくりを行う。

4年間の集大成である卒業設計において、木南賞という名誉ある賞をいただけたことを光栄に思います。1年間難易度の高いテーマと敷地で戦い心が折れそうな時もありましたが、その度に周囲の方々に助けていただきなんとか完走することができました。支えてもらった全ての方に感謝の意を表します。ありがとうございました。

神戸大学建築卒業設計賞　優秀賞

延近 佑澄

DE-STEELSCAPE

―高炉コンバージョンによる
福山アイデンティティの再編―

60 年間閉ざされてきた巨大製鉄所の一部を福山のまちに開放する。4 つのゲートエリアと第二高炉に向かう 1km のビスタを形成し、第二高炉を新たな人の活動を生む複合公共施設へとコンバージョンする。海を介した都市のサーキュレーションの中で高炉と製鉄所の風景は新たな福山アイデンティティとなる。

地元とその課題に向き合った卒業設計において、このような名誉ある賞をいただくことができ大変光栄に思います。ご指導いただいた先生方をはじめ、同期の友人たち先輩、後輩などたくさんの人に支えられて最後まで走りきるができました。この卒業設計を一つの指針として、今後も精進して参ります。

神戸大学建築卒業設計賞　優秀賞

丁子 紘亘

機響く

―兵庫県西脇市における
播州織の生活景―

兵庫県西脇市はかつて播州織の生産によって職人や人々のネットワークが生まれ、街が活気づいていた。産業も街も衰退してしまった現在、織物の 4 つの生産工程を分解して街の隙間へとフィルインし、再びひらくことによって、人と産業と街の連関を再編し、織物と街が双方高めあっていけるような、西脇の街の未来を描く。

「建築によって街と人はどのような豊かな関係性が築けるのか」という問いについて、最後まで考えた卒業設計でした。立てた問いの難しさに何度も打ち負けそうになりましたが、最後まで走りきれたのは支えてくださった先生、先輩方、仲間の存在があったからだと感じています。本当にありがとうございました。

2024 年度［神戸建築学］の報告

金谷　百音
（神戸大学大学院博士前期課程 1 年）

神戸建築学は、著名な建築家や研究者等を講師としてお招きしてご講演いただく講演会です。講演後には講師と神戸大学の院生・学部生との自由な討議の機会を設け、新たな環境創造における建築学の可能性を探る機会として開催しています。講演会の企画・運営は、教職員のサポートのもと、学生の有志メンバーが中心となって進めていきます。

2024 年度は第 51 回目の開催となり、大学院 1 年生、学部生の計 13 人が運営に携わり、事前に講師の方についての勉強や、資料・ポスターの作成、当日の運営までを自主的に行いました。

第 51 回講演会では、自然科学系図書館 4 階のイノベーションスタジオにて、建築家で芝浦工業大学の教授、法政大学の客員教授を兼任しておられる西沢平良先生にご講演頂きました。ご自身のプロジェクトを通して、現代建築は近代建築と混同されがちだが、近代建築の持つ artificial で realistic で large numbers な所に加えて、natural で magical で many varieties な所を併せ持つ建築を現代建築と定義している事、また現代建築における自然と人間の双方の要求に応える必要性についてお話頂きました。

神戸大学生を中心に、外部からも多くの方にご参加いただき、当日は 40 名程度の方にご来場いただきました。

神戸建築学は木南会からも助成を頂いております。ここにご報告し感謝申し上げる次第です。

《2024 年度　神戸建築学プログラム》
第 51 回：現代建築のつくり方
講師：西沢平良先生（建築家／芝浦工業大学教授、法政大学客員教授）
日時：12 月 26 日（木）17：00〜19：00
会場：神戸大学自然科学系図書館 4 階イノベーションスタジオ

西沢平良先生

西沢先生と学生運営メンバーの集合写真

神戸大学建築卒業展 2024『響』の報告

丁子　紘亘
（A71、神戸大学大学院博士前期課程 1 年）

神戸大学建築卒業展は、卒業設計及び卒業論文の展示を通して私たちと社会の接点をひらくこと、また現在活躍されている建築家の先生方をお招きしてレクチャーやご講評をいただき、卒業設計に関する討論の機会を設けることで直に社会にひらく場とし、卒業設計の集大成としてこれからにつながる機会になるように開催しております。2024 年度は第 19 回となる建築卒業展をデザイン・クリエイティブセンター KIITO にて開催致しました。大学院 1 年生の有志 26 名及び、有志の学部 4 年生 7 名が運営に携わり、企画、スポンサー活動、広報活動、当日の設営から運営までを行いました。

2024 年度のテーマは『響』です。私たち 2024 年度卒業生の多くは、コロナ元年と言われた 2020 年に大学に入学し、大学生活の約半分を同級生の顔もわからないまま自宅で過ごしました。当たり前の大学生活を奪われた私たちですが、その分人と対面で会うことの大切さ、人が過ごす建築の新たな可能性を知りました。そんな私たちが建築によって社会に少しでもメッセージを響かせられるようにとの思いからテーマを『響』と致しました。

3 日間の会期中、2 日目、3 日目には審査員の先生方を招待した講評会を開催致しました。本年度の特別審査員として、2 日目は建築家の前田茂樹先生（西沢大良先生は体調不良のため当日ご欠席）、3 日目は高橋渓先生と吉武宗平先生、そして、コーディネーターとして本学教授の槻橋修先生、末包伸吾先生にお越しいただきました。

展示会には、学生を中心にご家族、友人、地域の方など幅広い方々にお越し頂き、連日盛況のうちに終えることができました。

今年度は全体的に模型のサイズが大きく、展示が見ごたえのある展覧会になったことと存じます。特に印象に残ったシーンとして、ある学生が敷地調査の際にお世話になった地元の方が実際に展覧会にお越しくださり、私たちの熱量あふれる作品群を見ながら興味津々に学生と会話されていた場面がありました。私たちが取り組んだ成果が社会に対してこのように実際に『響いている』場面を見たことは、卒業展開催の意義を深く感じた瞬間でありました。

本建築卒業展には、木南会からもご助成を頂いております。ここにご報告し、感謝申し上げる次第です。

≪神戸大学建築卒業展 2024『響』プログラム≫
日時：
＜作品展示＞
4 月 27 日（土）　13：00～18：30
4 月 28 日（日）　10：00～18：30
4 月 29 日（月）　10：00～15：00
＜ゲストディスカッション＞
4 月 28 日（日）　14：00～18：30
4 月 29 日（月）　13：00～15：00
会場：デザイン・クリエイティブセンター
神戸 KIITO ギャラリー A

講評会の様子

集合写真

木南会会員の受賞・入選

個人情報保護のため、教職員および学生の受賞・入選情報は木南電子版には掲載しておりません。最新の受賞・入選情報は工学研究科ホームページや神戸大学建築設計教育作品集（KUAJ）からご覧いただけます。

会員の皆さまで掲載可能な情報をお持ちの方は木南会事務局までお知らせください。

・神戸大学大学院工学研究科・工学部、教職員・学生の受賞
http: //www. eng. kobe-u. ac. jp/research_publications/awards_index.html
・KUAJ Web、年度別アーカイブ
https://kuaj-kobe-u.net/yearly/

木南会事務局連絡先
E-mail: jimukyoku@mokunan.com

訃　報

個人情報の観点から、木南電子版には訃報の情報を掲載しておりません。KTC（冊子版）をご覧ください。

令和５年度　卒業研究・修士論文・修士設計一覧

令和５年９月　学部卒業研究一覧

建築学科（A72 回生）　3 名（男 2 名、女 1 名）

卒　業　研　究　題　目	指導教員
編物の吸音特性に関する実験的研究	阪上・奥園
急激な気圧降下時の建物内外圧に関する研究	竹内
回顧 －大久野島の戦争記憶と未来の私－	山口

令和６年３月　学部卒業研究一覧

建築学科（A72 回生）　91 名（男 59 名、女 32 名）

卒　業　研　究　題　目	指導教員
伊勢志摩のさざなみへ告ぐ－海女文化の受け継がれるこれからの漁業集落の姿－	栗山
創造の回廊－神戸・布引におけるサテライトオフィス－	栗山
対話の誘発－神戸・三宮における小劇場を中心とした文化創造交流拠点－	栗山
営みとの呼応－岐阜県鵜飼屋地区における生活景の保存と創出－	栗山
共創のアーカイブ－神戸における都市の記録と住民の記憶が紡ぐ文化の継承地－	栗山
大阪市西成区における外国人居住者の増加と地域への影響に関する研究	近藤
神戸市兵庫区平野地域における空き家再生による地域住民の生活圏の変化に関する研究	近藤
津山市城西地区における住民の水害リスクと減災対策に対する意識に関する研究	近藤
多拠点居住者のホームと拠点の意味に関する研究－定額制住み放題サービス ADDress 社の会員を対象として－	近藤
混住のすゝめ－下町のコミュニティを内包する集合住宅の提案－	近藤
複層ガラスの低域共鳴透過抑制のための吸音スペーサーに関する基礎的研究	阪上・奥園
不均一な背後空気層を持つ板振動型吸音体に関する基礎的研究	阪上・奥園
数値シミュレーションによる異形孔を有する微細穿孔板の吸音特性に関する検討	阪上・奥園
吸音処理によるプレナムドアの遮音性能向上に関する数値解析的検討	阪上・奥園
ソニックブラックホール吸音体に関する基礎的研究	阪上・奥園
マイクロスリットを用いたオクターブバンド音響メタサーフェス吸音体に関する研究 －低域における理論検証と薄型化を可能とする設計手法の提案－	阪上・奥園
Unity を用いた音線法シミュレーションにおけるエッジ回折の実装に関する研究－３次元空間での検討－	佐藤

卒　業　研　究　題　目	指導教員
複数音源を用いた音響案内に関する研究－音像の移動速度が誘導性能に及ぼす影響－	佐藤
床衝撃音が読書時のアノイアンスと生理量に及ぼす影響－実床衝撃音を用いた検討－	佐藤
災害時における外国人向け避難放送の在り方とその変化に関する調査研究	佐藤
気象が屋外拡声システムの明瞭性に及ぼす影響の分析方法に関する研究	佐藤
まちの終活－神戸市長田区上池田地区木造密集市街地における斜め壁を用いたケース・スタディ－	末包・後藤
機響く－兵庫県西脇市における播州織の生活景－	末包・後藤
まちをつぐ－富山市八尾町における紙の芸術拠点と生活景の展開－	末包・後藤
水景ノ結－木曽三川輪中地帯における堀田の再考による地域交流拠点－	末包・後藤
未来への布石－「岡崎みかげ」採石場における建築による埋め戻しの提案－	末包・後藤
遊動するくらしのすゝめ－ナリワイと分かち合いの自由が展開するこれからの坊勢島－	末包・後藤
テーマパークの光環境に関する研究	鈴木
円柱型照明器具におけるカフェウォール錯視の効果に関する研究	鈴木
AR 技術を用いた光環境の呈示手法に関する研究	鈴木
吹き抜けを有する住宅の光環境の性能に関する研究	鈴木
SBPDN 鉄筋を用いたプレキャスト円形 RC 柱の耐震性能に関する実験的研究	孫
高強度 RC 梁のせん断挙動及びせん断耐力に関する研究	孫
SBPDN 鉄筋を用いた RC 耐震壁の履歴性能に関する実験的研究	孫
SBPDN 鉄筋を円環状に配筋した正方形断面 RC 柱のせん断性状に関する研究	孫
室内温熱環境評価に向けた手首皮膚温による平均皮膚温推定の検討	高田・福井
氷点下を含む低温環境下における多孔質建築材料の水分物性についての基礎的研究	高田・福井
ALC の吸水性状に水との反応性と空気の entrapment が与える影響	高田・福井
試験体の乾燥時の環境が多孔質建築材料の平衡含水率の測定結果に及ぼす影響	高田・福井
皮膚の乾燥感における個人差の評価に向けた角層内水分拡散係数の推定	高田・福井
風応答変位の RTK 測位による平均風速推定手法に関する研究	竹内
RTK 測位を用いた簡易風速推定手法に関する基礎研究	竹内
超高強度鉄筋を用いた RC 造骨組の解析モデルに関する研究	竹内
突風時の住宅屋根面からの物体の飛散距離に関する研究	竹内

卒　業　研　究　題　目	指導教員
実測調査に基づく公園内に導入された異常高温対策による温熱環境改善効果に関する研究	竹林・橘高
街路形態と歩行空間内の暑さ緩和箇所の関係に関する研究	竹林・橘高
実測調査に基づく大学建物におけるベース・電灯・コンセント電力消費量の特徴分析に関する研究	竹林・橘高
実測調査に基づく大学建物における空調電力消費量の特徴分析に関する研究	竹林・橘高
潜熱蓄熱槽を持つ太陽熱給湯暖房システムにおける給湯排熱利用の可能性に関する研究	竹林・橘高
半自動高電流埋もれアーク溶接を用いた梁端接合部の塑性変形能力	田中
方杖型摩擦ダンパーの動的載荷実験	田中
梁端フランジ溶接部に生じる溶接欠陥が H 形断面梁の塑性変形能力に及ぼす影響	田中
780N/mm2 級鋼材を用いた溶接組立箱形断面柱の角継手に生じる低温割れに関する研究－窓枠拘束試験体を用いた検討－	田中
偏心荷重を受けるブレース端ガセットプレートの隅肉溶接の耐力評価	田中
地車創生譚－市民にひらく岸和田だんじり合同修理拠点－	槻橋・浅井
DE-STEELSCAPE －高炉コンバージョンによる福山アイデンティティの再編－	槻橋・浅井
菊果源記－ちかつあすか、往古の地勢で編みなおす－	槻橋・浅井
燃える家－阿蘇の野焼きと共生する住宅の提案－	槻橋・浅井
芽吹きのポスト・スケープへ－ははとこ、みんなの未来・よかわ－	槻橋・浅井
天下之台所－大阪・黒門市場の進化する底力－	槻橋・浅井
山を開く / 山が啓く－福井市足羽山の魅力を発信する散策型ミュージアム－	中江
創造性の渦－大学の麓における起業家プラットフォームの設計－	中江
水平荷重を受ける柱と集成材-RC スラブ合成梁の引きボルト式接合部の弾塑性挙動解析	難波
鉛直荷重を受ける集成材と RC スラブによる合成梁の弾性挙動に与える断面寸法の影響	難波
セミアクティブ免震構造の最適制御における重み係数と最大応答の関係	藤谷
多質点系セミアクティブ免震構造のリアルタイム・ハイブリッド実験による応答低減効果の検証	藤谷
免震構造のアクティブ制御における最適制御のパラメータと制御効果に関する研究	藤谷
鋼管拘束下の高強度コンクリートに埋め込まれた孔あき鋼板ジベルの引抜き耐力に及ぼす孔形状の影響に関する実験的研究	藤永
孔あき鋼板ジベルを用いた CFT 柱継手の引張耐力に及ぼすコンクリート強度と孔形状の影響に関する実験的研究	藤永
梁貫通形式 CFT 柱梁接合部における接合部パネル内部のフランジ開孔と接合形式の簡素化が接合部性能に及ぼす影響に関する研究	藤永
広範囲の径厚比と高強度材料を用いた円形 CFT 柱の終局曲げ耐力評価法	藤永

令和５年度　卒業研究・修士論文・修士設計一覧

卒　業　研　究　題　目	指導教員
ボルト接合の薄肉鋼管で横補剛した鋼管内蔵コンクリート柱の実験的研究	藤永
火災時の部材崩落による低速衝突を受ける鉄筋コンクリートスラブの損傷に関する研究	水島
3 次元立体フレームモデルの応答データベースの構築と分析の試み	水島
型枠支保工早期解体における残置支保工の２層最適配置に関する研究	水島
ネパールの山間部農村集落における伝統的住居群の構造調査に関する研究	向井・鍋島
数値解析による神戸ポートタワーの耐震改修前後の振動特性評価に関する研究	向井・鍋島
繰返し加振を受ける伝統的木造架構の微振動レベルの振動特性変化に関する研究	向井・鍋島
ARX モデルによる物理パラメータ同定を介した構造損傷検出に関する基礎的研究	向井・鍋島
免震構造物に対するスライディングモード制御によるセミアクティブ制振効果に関する研究	向井・鍋島
街の鼓動、山の躍動－人と自然を繋ぐスタジアムの再生－	安田
FLEXIBLE　SPORTS CENTER －運動で繋がる三田の健康拠点－	安田
風景を摘む－お茶の里大台の姿を継ぐ集落のあり方－	安田
商いと暮らしの杜－住まいと地域をつなぐ場所－	山口
地景を継ぐ－堺環濠都市北部におけるまちづくり拠点－	山口
ひとときまち－廻り織りなす住まい－	山口
環境負荷を考慮した木造建築の部材循環シミュレーションに関する研究	山邊
地震被害想定手法における機械学習の適用と地震リスクの一元化に関する研究	山邊
画像生成 AI を用いた集合住宅の実用的な設計図面の生成方法に関する研究	山邊
MAS を用いた神戸都心部における観光情報レコメンドの効果に関する研究	山邊
空間再編賑わい創出事業における空き家等の集約最適化システムに関する研究	山邊

＊個人情報の観点から、48 号から卒業・修了生の氏名の掲載をとりやめました。

令和６年３月　大学院工学研究科博士課程前期課程修士論文・修士設計一覧

建築学専攻（A 院 59 回生）　61 名（男 47 名、女 14 名）

修士論文・修士設計題目	指導教員
京阪神都市圏における鉄道高架下空間の整備とまちづくり手法に関する研究	栗山
神戸・都心ウォーターフロントの親水空間の構成と景観評価に関する研究	栗山
現代建築物を対象とした景観資源の評価に関する基礎的研究－神戸市の表彰作品を事例として－	栗山
原発事故により長期避難指示を受けた地域の土地・建物の実態とまちの将来像に関する研究－福島県双葉町を事例として－	栗山
オーストラリア・メルボルン市の歩行者優先道路における屋外飲食空間の構成と景観評価に関する研究	栗山
民間事業者が携わる郊外住宅団地の再生事業の実態と特徴に関する研究－兵庫県神戸市・三田市・三木市での取組に着目して－	栗山
難波和彦の「箱の家」にみる一室空間に関する研究	光嶋
職人の工房における空間的特徴とネットワークに関する研究及び設計提案 －京都府丹後地方を対象として－	光嶋
「新旧対比手法」を用いた再生建築に関する研究及び設計提案 －神戸市のモダニズム建築の再生を通して－	光嶋
駅のラチ外コンコースにおける空間利用の可能性に関する研究及び設計手法 －神戸三宮を対象として－	光嶋
持続性と個性ある都市環境の実現に向けた公開空地利活用に関する研究及び設計提案 －京都市都市計画見直しに伴う都市化を見据えた、京都駅東南部エリアを対象地として－	光嶋
学校建築において積極的快適性を獲得する建築的斑空間に関する研究及び設計提案 －都市型高層学校建築の類型化を通して－	光嶋
コミュニティ形成のための中層団地における共用空間活用に関する研究及び設計提案 －中国南方地区湖州市湖東団地を対象として－	光嶋
風化的減築を伴う都市型集合住宅の再生に関する研究及び設計提案 － 1960-70 年代におけるソウルの會賢第 2 市民アパートを対象として－	光嶋
重要伝統的建造物群保存地区の住民による住宅減災対策への意向と行動の規定要因に関する研究	近藤
ワーケーション実践者の住意識の変化と住まい方志向の形成に関する研究	近藤
波動音響解析と高次アンビソニックスを用いた VR 教育コンテンツの開発と音響設計への応用に関する研究	阪上・奥園
MPP を用いた 3 重構造パーティションの音響特性に関する基礎的研究	阪上・奥園
空気吸収を考慮した周波数領域の波動音響シミュレーションに関する研究	阪上・奥園
視聴覚情報が室内における距離知覚に及ぼす影響－バーチャルリアリティ技術を用いた検討－	佐藤
柳澤孝彦の建築思想および建築作品に関する研究 －劇場・美術館・記念館作品における【文化的公共性】に着目して－	末包・後藤
中・高等学校建築作品における設計思想とその設計手法に関する研究 － 1968 年から 2022 年の現代建築作品を対象として－	末包・後藤
現代建築作品における「風景」の概念の主題とその表象に関する研究	末包・後藤
村野藤吾の言説にみる建築思想およびその変遷に関する研究	末包・後藤

修士論文・修士設計題目	指導教員
セグメントマッチング法を用いた正反射リフレクター形状の最適化に関する研究	鈴木
開口高強度 RC 梁のせん断補強に関する実験的研究	孫
店先を開放して営業する店舗の自然換気による空調負荷の評価	高田
室内の温湿度変化に対する皮膚の含水率と肌理の応答	高田
人流データを用いた空調制御による地下街通路部分の省エネルギーに関する研究	竹林・橘高
暑さ対策としてのミスト噴霧による温熱環境改善効果の評価方法に関する研究	竹林・橘高
アンダーマッチ溶接による 780N/mm2 級箱形断面柱継手の耐力評価および設計法	田中
角部が低靭性である冷間成形角形鋼管柱の塑性変形能力に及ぼす溶接部形状の影響	田中
梁端ウェブ接合部に設けられるめっき抜き孔に発生する溶融亜鉛めっき脆化割れに与えるめっき浸漬速度の影響	田中
鋼構造外柱形式露出柱脚基礎梁接合部の終局耐力に与える接合部詳細の影響	田中
H 形断面梁端溶接部の亀裂進展に及ぼす溶接欠陥寸法，開先形状および梁断面寸法の影響	田中
市街地沿道における生活緑化の特性に関する研究 －兵庫区湊山地区を対象とした細街路の緑の実測調査から－	槻橋・浅井
六甲山麓の市街地縁辺部における『ポケット的住宅地』の空間特性に関する研究 －全天球画像を用いた景観分析による囲繞性の把握－	槻橋・浅井
生物多様性に配慮したウォーターフロント空間の研究および設計－姫路港周辺地区の再生計画における生息域評価手法の導入について－	槻橋・浅井
ハイブリッドワークモデルを導入した創造的都心空間の研究及び設計－大阪梅田地区への提案を通じて－	槻橋・浅井
地区防災計画における減災ドローンを活用した映像付き防災マップに関する研究	槻橋・浅井
空間体験の図式化による現代建築の分析及び設計－空間単位の構成に着目して－	槻橋・浅井
都心商業集積地における多様な主体のための都市建築モデルの研究及び設計 －神戸三宮地区における再開発計画－	槻橋・浅井
被災地における場所の記憶の継承活動と住民意識に関する研究 －石巻市大川地区復興ワークショップの運営事例から－	槻橋・浅井
上海集中式賃貸住宅共用空間の構成と利用に関する研究	槻橋・浅井
木材めり込み挙動の 3 次元 FEM 解析 等変位めり込み弾性挙動の力学的剛性評価	難波
梁端塑性化領域に貫通孔を有する鋼梁の補強法に関する研究	難波
多目的最適化による大振幅地震動に対する制振ダンパー配置 GA による骨組とダンパー量の最適化	藤谷
パルス性地震動に対する免震建物のアクティブ制御に関する研究	藤谷
パルス性地震動下における免震構造のセミアクティブ制御の減衰効果の評価に関する研究	藤谷
接着系あと施工アンカーの抵抗性能改善に関する研究	藤永
孔あき鋼板ジベルを用いた CFT 柱継手に関する研究	藤永

修士論文・修士設計題目	指導教員
幅・径厚比の大きい鋼管および高強度材料を用いたCFT柱の終局曲げ耐力評価法	藤永
梁貫通形式円形CFT柱梁接合部に関する研究	藤永
薄肉鋼管で横補強した鋼管内蔵円形コンクリート柱に関する実験的研究	藤永
アウターフレーム補強を有する木造古民家の実大振動台実験に関する数値シミュレーションに基づく検証	向井・鍋島
振動計測と数値モデル解析に基づく神戸ポートタワーの動的性能評価に関する研究	向井・鍋島
免震構造物の擁壁衝突時における上部構造物の簡易な応答予測のための数値解析手法に関する研究	向井・鍋島
最適制御法に基づくアクティブ制振構造の制御変数操作による構造特性変化の定量的評価に関する研究	向井・鍋島
重要伝統的建造物群保存地区における周辺地区を含む居住の継承を核とした生活環境保全 －奈良県橿原市今井町を対象として－	山口
まちづくりにおける住民組織の展開と民間デベロッパーの連携に関する研究 －千葉県佐倉市・ユーカリが丘を対象として－	山口
MASを用いた被災情報を考慮した災害救助シミュレーションに関する研究	山邊

* 個人情報の観点から、48号から卒業・修了生の氏名の掲載をとりやめました。

会務報告

■ 2023 年度　木南会評議員会の報告
日時：2024 年 4 月 27 日（土）14：00〜14：30
場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）301 室
議事：2024 年度定例総会提出議案ほか
総会に提出する議案について承認が得られた。

■ 2024 年度　木南会総会の報告
日時：2024 年 4 月 27 日（土）14：00〜14：30
場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）301 室
議事：
議長選出　高田　暁氏（En ⑮）
議案 1 ／ 2023 年度事業報告
① 2023 年度評議員会の開催
② 2023 年度木南会総会の開催
③役員会の開催
④会員交流のための事業
・神戸大学建築卒業展への援助
・神戸建築学への援助
⑤教員と学生との交流事業
・設計演習講評会後の懇親会等への援助
⑥ 2023 年度協力金の募集
⑦会誌『木南』47 号発行
⑧木南会ホームページの運営
⑨財政問題に関する検討

議案 2 ／ 2023 年度会計報告及び会計監査報告
【次頁参照】

議案 3 ／ 2024 年度事業計画（案）
①評議員会、木南会総会、役員会の開催
②会員交流のための事業
・神戸大学建築卒業展への援助
・神戸建築学への援助
③教員と学生との交流事業
・設計演習講評会後の懇親会等への援助
④協力金の募集
・KTC 機関紙に依頼文と振込用紙を同封する。
⑤会誌『木南』48 号発行
・電子版（pdf ファイル）として発行。冊子体での作成は行わない。
・木南会ホームページから、各会員にダウンロードいただく形式とする。
・登録された電子メールアドレスに、「木南」が発行された旨の通知を送信。
・ＫＴＣ機関紙の同封物の中に案内文を同封することは継続する。
・ホームページからダウンロードされることを前提とした紙面構成とする。
⑥木南会ホームページの運営
・バナーを設け、広告料収入を得る。
・木南のダウンロード可能な形とする。
⑦財政問題に関する検討
・「木南」の印刷代を削減する。
・ホームページの広告料収入を見込む。

議案 4 ／ 2024 年度予算（案）
【次頁参照】

議案 1 〜 4 のすべてが採択されました。総会の最後に、2023 年度専攻長の向井先生より教室報告、高田事務局長より KTC の報告がなされました。その後、懇親会を開催しました。

2024 年度役員一覧		
会　長	増田 匡	En ⑩
副会長	柴田 和弘	EN ⑧
	犬伏 昭	A ㉜
顧　問	山崎 寿一	En ①
会計監査員	池田 真也	AC2
	田中 幸夫	A ㊴
事務局長	高田 暁	En ⑮
事務局次長	山崎 尚	AC4
	黒川 正樹	A ㊸
	藤永 隆	特別会員
事務局員	仲矢 耕平	AC11
	海原 英正	A 院 47
	福本 一海	AC7
	平田 真	AC13
	福井 一真	特別会員

木南会協力金のお願い

木南会は KTC の一単位クラブとして位置づけられており、単独の財源をもっておりません。
広く会員からの直接的なご支援として、皆様より協力金を頂いております。
このことは本会活動の経常化、健全化に資するところ極めて大であります。
企業などの組織に多数の会員が所属されている場合には、複数名からの協力金を一括してお振込みいただくことも可能です。
また、卒業設計展等へご協力を目的とした振り込みを可能としております。卒業設計・研究に一生懸命に取り組む学生へご支援いただけますと幸いです。
木南会運営協力金として、この趣旨を宜しくお汲み取りいただき、下記のように納入をお願い申し上げます。

KTC に同封しております協力金のお願いもぜひご覧ください。
一口 1,000 円からでお願いいたします。

振込先
郵便局口座番号:01150–6–63410
口座名:木南会事務局

ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振込先
ゆうちょ銀行
店番:119
店名:一一九店（イチイチキュウ店）
口座番号:0063410
口座名:木南会事務局

会計報告

令和５年度会計予算及び決算（収入の部）

項目	予算額	決算額
事業収入	26,000	18,000
広告収入	340,000	340,000
協力金	500,000	557,000
雑収入	7	478
総収入小計	866,007	915,478
前年度繰越金	2,353,032	2,353,032
合　計	3,219,039	3,268,510

令和６年度会計予算（収入の部）

項目	予算額	前年度予算額
事業収入	15,000	26,000
広告収入	300,000	340,000
協力金	500,000	500,000
雑収入	14	7
総収入小計	815,014	866,007
前年度からの繰越金	1,936,657	2,353,032
合　計	2,751,671	3,219,039

令和５年度会計予算及び決算（支出の部）

項目	予算額	決算額
事務費	223,000	127,657
諸手当	194,000	116,850
交通費	5,000	0
消耗品費	1,000	154
印刷費	0	0
通信費	15,000	3,008
雑費	8,000	7,645
会議費	100,000	80,418
総会費	0	7,440
役員会費	100,000	72,978
事業費	1,060,000	1,123,778
会誌発行	950,000	919,530
ホームページ運用	10,000	8,028
教員学生交流事業	0	40,000
会員交流事業	100,000	90,000
建築学科 100 周年に関する活動費	0	66,220
予備費	80,000	0
総支出小計	1,463,000	1,331,853
繰越金	1,756,039	1,936,657
合　計	3,219,039	3,268,510

令和６年度会計予算（支出の部）

項目	予算額	前年度予算額
事務費	135,350	223,000
諸手当	116,850	194,000
交通費	5,000	5,000
消耗品費	500	1,000
印刷費	0	0
通信費	5,000	15,000
雑費	8,000	8,000
会議費	88,000	100,000
総会費	8,000	0
役員会費	80,000	100,000
事業費	993,409	1,060,000
会誌発行	854,909	950,000
ホームページ運用	8,500	10,000
教員学生交流事業	40,000	0
会員交流事業	90,000	100,000
建築学科 100 周年に関する活動費	0	0
予備費	50,000	80,000
総支出小計	1,266,759	1,463,000
次年度への繰越金	1,484,912	1,756,039
合　計	2,751,671	3,219,039

工学部 50 周年木南会基金特別会計（収入の部）

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	4,574,756	4,574,756
雑収入	50	38
合　計	4,574,806	4,574,794

工学部 50 周年木南会基金特別会計（収入の部）

項目	予算額	前年度予算額
前年度繰越金	4,574,794	4,574,756
雑収入	38	39
合　計	4,574,832	4,574,795

工学部 50 周年木南会基金特別会計（支出の部）

項目	予算額	決算額
総支出小計	0	0
次年度への繰越金	4,574,806	4,574,794
合　計	4,574,806	4,574,794

工学部 50 周年木南会基金特別会計（支出の部）

項目	予算額	前年度予算額
総支出小計	0	0
次年度への繰越金	4,574,832	4,574,795
合　計	4,574,832	4,574,795

木南会　卒業回生・修士（博士前期）修了回生および各回評議員一覧

平成 16 年 4 月 10 日に会則が改正され、評議員が各回 3 名程度となりました。各回において評議員の増員、選出をお願いいたしますとともに、事務局まで新評議員をご連絡くださいますようお願いいたします。
【評議員　2025 年 2 月現在　＊：評議員がいない又は未定】

『木南会会員名簿』（1996 年刊行最終）や会誌『木南』各号では卒業・修了年（年月）のみが表記されておりますが，本表では年度と年月を併記しております。
※ 9 月卒業の場合は，同年度の卒業・修了回生となります。

修士（博士前期）修了回生	通年回生	卒業年度 修了年度	卒業年月※ 修了年月※	新制の通年回生	卒業回生	評議員氏名
		1924（T13）	1925（T14）.3		A 1	＊
		1925（T14）	1926（T15）.3		A 2	＊
		1926（T15）	1927（S 2）.3		A 3	＊
		1927（S 2）	1928（S 3）.3		A 4	＊
		1928（S 3）	1929（S 4）.3		A 5	＊
		1929（S 4）	1930（S 5）.3		A 6	＊
		1930（S 5）	1931（S 6）.3		A 7	＊
		1931（S 6）	1932（S 7）.3		A 8	＊
		1932（S 7）	1933（S 8）.3		A 9	＊
		1933（S 8）	1934（S 9）.3		A10	大ヶ瀬正美
		1934（S 9）	1935（S10）.3		A11	＊
		1935（S10）	1936（S11）.3		A12	＊
		1936（S11）	1937（S12）.3		A13	＊
		1937（S12）	1938（S13）.3		A14	＊
		1938（S13）	1939（S14）.3		A15	＊
		1939（S14）	1940（S15）.3		A16	＊
		1940（S15）	1941（S16）.3		A17	＊
		1941（S16）	1941（S16）.3		A18	＊
		1941（S16）	1942（S17）.3		A19	＊
		1942（S17）	1943（S18）.3		A20	山下聡清
		1943（S18）	1944（S19）.3		A21	横野　一
		1944（S19）	1945（S20）.3		A22 Ⅰ	＊　Ⅰ＊
		1945（S20）	1946（S21）.3		— Ⅱ	—　Ⅱ永江　勲
		1946（S21）	1947（S22）.3		A23 Ⅲ	＊　Ⅲ＊
		1947（S22）	1948（S23）.3		A24 Ⅳ	増川修三　Ⅳ宮川吉夫
		1948（S23）	1949（S24）.3		A25 Ⅴ	橋本　昌　Ⅴ藤田　一
		1949（S24）	1950（S25）.3		A26 Ⅵ	＊　Ⅵ＊
		1950（S25）	1951（S26）.3		A27	＊
		1951（S26）	1952（S27）.3		—	—
		1952（S27）	1953（S28）.3	1	A ①	＊
		1953（S28）	1954（S29）.3	2	A ②	＊
		1954（S29）	1955（S30）.3	3	A ③	福井　實
S30.7 工学部に工学専攻科設置、修業年限 1 年	A 専 1	1955（S30）	1956（S31）.3	4	A ④	緒方忠雄、岩佐英治
	A 専 2	1956（S31）	1957（S32）.3	5	A ⑤	渡辺英秋
	A 専 3	1957（S32）	1958（S33）.3	6	A ⑥	＊
	A 専 4	1958（S33）	1959（S34）.3	7	A ⑦	徳丸　陽
	A 専 5	1959（S34）	1960（S35）.3	8	A ⑧	小西一生
	A 専 6	1960（S35）	1961（S36）.3	9	A ⑨	大内　寛
	A 専 7	1961（S36）	1962（S37）.3	10	A ⑩	＊
	A 専 8	1962（S37）	1963（S38）.3	11	A ⑪	福島昭夫
	A 専 9	1963（S38）	1964（S39）.3	12	A ⑫	＊
		1964（S39）	1965（S40）.3	13	A ⑬	名塩征一郎
S39.4 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻設置	A 院 1	1965（S40）	1966（S41）.3	14	A ⑭	横山史夫
	A 院 2	1966（S41）	1967（S42）.3	15	A ⑮	＊
	A 院 3	1967（S42）	1968（S43）.3	16	A ⑯	幸田庄二
	A 院 4	1968（S43）	1969（S44）.3	17	A ⑰	三宗司郎
	A 院 5	1969（S44）	1970（S45）.3	18	A ⑱	森本政之
	A 院 6	1970（S45）	1971（S46）.3	19	A ⑲	川本道明
	A 院 7	1971（S46）	1972（S47）.3	20	A ⑳	足立裕司
	A 院 8	1972（S47）	1973（S48）.3	21	A ㉑	太田　純
	A 院 9	1973（S48）	1974（S49）.3	22	A ㉒	＊
	A 院 10	1974（S49）	1975（S50）.3	23	A ㉓	＊
	A 院 11	1975（S50）	1976（S51）.3	24	A ㉔	大西一嘉
	A 院 12	1976（S51）	1977（S52）.3	25	A ㉕	大西利幸

T10（1921）.12 神戸高等工業学校設立、修業年限 3 年、T11.4 始業式、T14.3 第 1 回卒業式

S17.3 第二部設置、S17.4 授業開始

S19.4 神戸工業専門学校に改称

S24.5 神戸工業専門学校が新制の神戸大学に包摂　神戸大学工学部建築学科発足

修士（博士前期）修了回生	通年回生	卒業年度 修了年度	卒業年月※ 修了年月※	新制の通年回生	卒業回生	評議員氏名
A 院 13	13	1977（S52）	1978（S53）.3	26	A ㉖	松川敏正
A 院 14	14	1978（S53）	1979（S54）.3	27	A ㉗	菅原康雄
S55.4 環境計画学専攻設置 A 院 15	15	1979（S54）	1980（S55）.3	28	A ㉘ En1	A 上山　卓　En 山口昌一
A 院 16	16	1980（S55）	1981（S56）.3	29	A ㉙ En2	En 柳　裕隆
En 院 1 A 院 17	17	1981（S56）	1982（S57）.3	30	A ㉚ En3	A 藤本悦生　En 三木太志
En 院 2 A 院 18	18	1982（S57）	1983（S58）.3	31	A ㉛ En4	A 福本保治　En ＊
En 院 3 A 院 19	19	1983（S58）	1984（S59）.3	32	A ㉜ En5	A 山本勝彦　En 柴田明宏
En 院 4 A 院 20	20	1984（S59）	1985（S60）.3	33	A ㉝ En6	A 沢田裕美子　En 今泉敦子
En 院 5 A 院 21	21	1985（S60）	1986（S61）.3	34	A ㉞ En7	A 末包伸吾　En 福田和也
En 院 6 A 院 22	22	1986（S61）	1987（S62）.3	35	A ㉟ En8	A 天宅　毅　En 中原　信
En 院 7 A 院 23	23	1987（S62）	1988（S63）.3	36	A ㊱ En9	A 石井太志　En 水島孝一郎
En 院 8 A 院 24	24	1988（S63）	1989（H 1）.3	37	A ㊲ En10	A 窪添正昭　En 中濱宏樹
En 院 9 A 院 25	25	1989（H 1）	1990（H 2）.3	38	A ㊳ En11	A 松原由典　En 長澤基一
En 院 10 A 院 26	26	1990（H 2）	1991（H 3）.3	39	A ㊴ En12	A 中江　研　En 太田耕司
En 院 11 A 院 27	27	1991（H 3）	1992（H 4）.3	40	A ㊵ En13	A 中西伸介　En 野田大輔
En 院 12 A 院 28	28	1992（H 4）	1993（H 5）.3	41	A ㊶ En14	A 中川龍一　En 光平正弘
En 院 13 A 院 29	29	1993（H 5）	1994（H 6）.3	42	A ㊷ En15	A 仁木りつこ　En 松隈守城
En 院 14 A 院 30	30	1994（H 6）	1995（H 7）.3	43	A ㊸ En16	A 瀧澤重志　En 湖亀一登
AC 院 1 En 院 15 A 院 31	31	1995（H 7）	1996（H 8）.3	44	A ㊹ En17	AC 1 竹林英樹
AC 院 2	32	1996（H 8）	1997（H 9）.3	45	A ㊺	AC 2 山﨑康弘
AC 院 3 A 院 33	33	1997（H 9）	1998（H10）.3	46		AC 3 江見卓郎
AC 院 4 H6.4 工学研究科建築学専攻、環境計画学専攻、土木工学専攻が自然科学研究科建設学専攻に改組	34	1998（H10）	1999（H11）.3	47	H4.4 建築学科、環境計画学科、土木工学科が建設学科に改組	AC 4 岡田光輝
AC 院 5	35	1999（H11）	2000（H12）.3	48		AC 5 有井美保
AC 院 6	36	2000（H12）	2001（H13）.3	49		AC 6 門川信一郎
AC 院 7	37	2001（H13）	2002（H14）.3	50		AC 7 濱口善胤
AC 院 8	38	2002（H14）	2003（H15）.3	51		AC 8 ＊
AC 院 9 H19.4 自然科学研究科建設学専攻が工学研究科建築学専攻，市民工学専攻に改組	39	2003（H15）	2004（H16）.3	52		AC 9 ＊
AC 院 10	40	2004（H16）	2005（H17）.3	53		AC10 ＊
AC 院 11	41	2005（H17）	2006（H18）.3	54		AC11 南原加代子、伊藤麻衣、山本杏子
AC 院 12	42	2006（H18）	2007（H19）.3	55		AC12 平野俊一郎、長濵健太、東岡泰一
AC 院 13	43	2007（H19）	2008（H20）.3	56	H19.4 建設学科が建築学科、市民工学科に改組	AC13 三浦太郎、陣内恵子
AC 院 14 A 院 44	44	2008（H20）	2009（H21）.3	57		AC14 田中了太、夕部貴史、伊藤彰浩
AC 院 15 A 院 45	45	2009（H21）	2010（H22）.3	58		AC15 伊藤綾那、木俣勇亮、坂口紗希子
A 院 46	46	2010（H22）	2011（H23）.3	59	A59	AC16 川口麻子、百武亜希子、屋野明日香
A 院 47	47	2011（H23）	2012（H24）.3	60	A60	佐藤勇介、吉田尚人、栗山康輔
A 院 48	48	2012（H24）	2013（H25）.3	61	A61	富谷保彰、八木里英子、粉川壮一郎
A 院 49	49	2013（H25）	2014（H26）.3	62	A62	冨田　泉、田中未咲、松原奏美
A 院 50	50	2014（H26）	2015（H27）.3	63	A63	吉岡明剛、吉田卓彌、野田友輝
A 院 51	51	2015（H27）	2016（H28）.3	64	A64	上西宏治、山下勇紀、後藤沙羅
A 院 52	52	2016（H28）	2017（H29）.3	65	A65	伊藤大輝、高橋克俊
A 院 53	53	2017（H29）	2018（H30）.3	66	A66	竹田理紗、島田　樹、今井悠喜
A 院 54	54	2018（H30）	2019（H31）.3	67	A67	横井秀平
A 院 55	55	2019（R 1）	2020（R2）.3	68	A68	田中駿介、西田真子、硯　愛画
A 院 56	56	2020（R 2）	2021（R3）.3	69	A69	杉本優衣、秋葉雄太、篠山航大
A 院 57	57	2021（R 3）	2022（R4）.3	70	A70	木﨑理沙、道免尚子、清水健人
A 院 58	58	2022（R 4）	2023（R5）.3	71	A71	福村知隼、宮本莉奈、岩本　智
A 院 59	59	2023（R 5）	2024（R6）.3	72	A72	山口千晶、武智亮太、田中琴絵
A 院 60	60	2024（R6）	2025（R7）.3	73	A73	【2025 年 3 月卒業生から選出予定】

凡例：

A1，A2，A3，…… A20　　A21，A22，A23，…… A27　　Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，…… Ⅵ
神戸高等工業学校建築科 卒業回生　　神戸工業専門学校建築科 卒業回生　　同左第二部 卒業回生

A ①，A ②，A ③，…… A ㊺／A59，A60，A61，……
神戸大学工学部建築学科 卒業回生（A ㊺までは旧制の回生との区別のため○付）

En1，En2，En3，…… En17　　AC1，AC2，AC3，…… AC16
神戸大学工学部環境計画学科 卒業回生　　神戸大学工学部建設学科（建築系）卒業回生

A 専 1，A 専 2，A 専 3，…… A 専 9
神戸大学工学部工学専攻科建築専攻 修了回生

A 院 1，A 院 2，A 院 3，…… A 院 33／A 院 44，A 院 45，……　　En 院 1，En 院 2，En 院 3，…… En 院 15
神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 修了回生　　神戸大学大学院工学研究科環境計画学専攻 修了回生

AC 院 1，AC 院 2，AC 院 3，…… AC 院 15
神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程建設学専攻（建築学コース）修了回生

木南会会則

第　1　章　　総　　則
（名称、本部）
第1条　本会は木南会と呼び、本部を神戸大学大学院工学研究科建築学専攻に置く。
第　2　章　　目的及び事業
（目　　的）
第2条　本会は（一般社団法人）神戸大学工学振興会（略称KTC）の1つの構成単位として会員相互の連携を計り、社会的地位の向上に努めると共に、母校の発展を助成することを目的とする。
第　3　章　　会　　員
（会　　員）
第3条　本会は次の会員で組織する。
1．正会員：神戸高等工業学校建築科、神戸工業専門学校建築科、神戸大学工学部建築学科及び環境計画学科の卒業者、神戸大学工学部専攻科建築学修了者、神戸大学大学院工学研究科建築学専攻及び環境計画学専攻修了者、神戸大学工学部建設学科（建築系）の卒業者、神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程建設学専攻及び同後期課程の建築系教員指導による修了者、神戸大学大学院工学研究科博士課程後期課程の建築系教員指導による修了者､並びにこれらに準ずる者。但し、卒業者に準ずる者の入会については役員会の決議による。
2．準会員：神戸大学工学部建築学科在学生、神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程及び後期課程建築学専攻在学生のうち、正会員以外の者。
3．特別会員：神戸高等工業学校建築科、神戸工業専門学校建築科、神戸大学工学部建築学科，同環境計画学科、同建設学科（建築系）の旧教職員、神戸大学教養部図学教室，神戸大学大学院自然科学研究科の旧建築系教員、並びに神戸大学大学院工学研究科建築学専攻及び都市安全研究センター（建築系）の現及び旧教職員。
4．名誉会員：工業の発展に関して功績顕著である者又は学識名誉のあるもので役員会の決議を経た者。
第　4　章　　役員及び職員
（役　　員）
第4条　本会に次の役員をおき、その任期は2年とする。
1．会長：1名、正会員の中から評議員会によって推薦し、本会を代表し、会務を統轄する。
2．顧問：1名並びに相談役若干名、本会役員経験者の中から会長が委嘱し、会長の諮問に応じる。ただし、顧問は前期の会長とする。
3．副会長：2名、正会員の中から評議員会によって推薦し会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
4．評議員：各回3名程度、正会員の各回毎に互選し各回を代表し会務の審議を行う。
5．学内幹事：若干名、大学内の正会員及び特別会員の中から会長が委嘱し、会務を分掌する。
6．会計監査員：2名、正会員の中から評議員会によって推薦して会長が委嘱し、会計部門に属する一切の事項の監査を行う。
7．KTC（略称）理事：若干名、正会員の中から会長が委嘱し、会務の審議を行う。
8．事務局：事務局長1名並びに次長他若干名、正会員及び特別会員の中から会長が委嘱し、会務を処理する。
9．その他役員：必要に応じ、正会員及び特別会員の中から会長が委嘱し、会務を処理する。
（事　　業）
第5条　本会の目的を達成するため次の事業を行う。
1．会員相互の連携を計り､社会的地位の向上に関する事業。
2．母校の発展助成に関する事業。
3．情報連絡、その他刊行物の発行。
4．その他本会の目的達成のために必要な事業。
第　5　章　　会　　議
（集　　会）
第6条　会務遂行するために次の事を行う。
1．総会：年1回開くのを原則とし、次の事を諮る。
1）会務の年度計画
2）予算及び決算
3）本会則の改正、廃止
4）その他重要な事項
2．評議員会：会務の必要に応じ開き次の事を諮る。
1）会長、副会長、会計監査員の推薦
2）総会に提出する議案
3）会務処理に必要な細則の制定改正
4）その他必要な事項
3．その他役員会：事務の必要、又は会長の要請に応じ開き次の事を諮る。
1）評議員会に提出する議案
2）事業の実施計画
3）その他必要な事項
4．集会は会長が招集し、会長、副会長はすべての役員会に出席できる。
5．決議は出席者の過半数の賛成による。
第　6　章　　資本および会計
（会　　計）
第7条　本会の経費は、ＫＴＣ交付金、寄附金その他の収入による。
1．会計年度は3月1日より翌年の2月末日までとする。ただし､会長が評議員会の同意を得て変更することができる。
2．会計に関する規定は、必要に応じ会長が別に定めることができる。
（支　　部）
第8条　本会は各地に必要と認める支部を設けることができる。
1．支部の規定は別に定める。

木南会の事業に関する細則
第1条　目的
会則第5条の主旨に合致する事業を必要に応じて実施することを目的とする。
第2条　財源
財源は､「工学部50周年木南会基金特別会計（以下､「木南会基金」という)」とする。
第3条　事業の提案
大学外の会員は、木南会会長を通じて役員会に提案する。大学内の会員は、神戸大学建築学教室の教室会議の承認を受けて役員会に提案する。ただし費用が50万円以上の事業については、事業の前年度に提案する。
第4条　事業実施の判断
事業費用が50万円未満の事業の実施の判断は、役員会が行う。事業費用が50万円以上の場合は、役員会で審議した後、総会で審議し判断する。
第5条　管理
管理は、事務局長が行うこととする。
第6条　会計
会計は、会計担当が行うこととする。

編集後記

「木南」48 号をお届けします。

今年度は，藤谷秀雄先生のご退職記念記事を向井洋一先生と福井弘久様（国立研究開発法人防災科学技術研究所）にご執筆いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。また，2021 年度に新設された「神戸大学建築卒業論文賞」に関する記事も昨年度に引き続き掲載しております。学生の活動をより身近に感じていただけますと幸いに存じます。

木南会では財政難が続いており，電子化へ向けての検討を行ってまいりました。2024 年度の総会にて，48 号から冊子体での発行を廃止し，web 上の電子版という形での発行を採択しております。形は変わりますが引き続き木南をご愛読いただけますことを祈っております。

「木南」の発行をはじめ本会の運営は，会員の皆様からの木南会協力金や寄付金，広告等によって成り立っております。本会の財務は現在，きわめて厳しい状況にあります。今後とも会員の皆様からのご支援を，心よりお願い申し上げます。

48 号の表紙デザインは，2023 年度に建築卒業設計賞の大賞・木南賞として表彰された大学院生の泉貴広さん，柳内あみさん（ともに A72）に，ご協力いただきました。ありがとうございました。

最後にこの場を借りまして，ご協力いただいた会員の皆様に心より御礼を申し上げます。また，困難な情勢にもかかわらず，広告をお寄せいただきました団体，企業の皆様にも厚く御礼申し上げます。　　（福井一真）

木南 48 号編集担当　福井一真（特別会員）
編集協力　建築学事務室　野田佳世

木南会評議員会・総会のお知らせ

木南会会長 増田　匡（En ⑩）

2025 年 4 月後半以降に開催する予定ですが、詳細は木南会ホームページにて案内させて頂きます。

http://mokunan.com/

連絡先：木南会事務局　jimukyoku@mokunan.com

木南 48 号
発行日 / 2025 年 3 月 13 日
発　行 / 木南会
編　集 / 木南編集委員会
㈱学術出版印刷
事務局 / 〒 657−8501　神戸市灘区六甲台町 1−1
神戸大学大学院工学研究科
建築学専攻事務室内
電 話：078−803−6065
FAX ：078−881−3921
ホームページ
http://mokunan.com